

茨木の教育 平成 29 年度（2017 年度）

— 目次 —

I. 茨木市の教育行財政

1. 教育委員会

- (1) 教育委員会の構成
- (2) 教育委員会事務局等の組織
- (3) 教育に関する施政方針と事業概要

2. 学校園施設

- (1) 学校園施設状況
- 【幼稚園・小学校・中学校】

II. 学校園教育

1. 学校園運営と教職員の意識改革について

- (1) 保幼小中連携教育の推進
- (2) 業務改善の推進
- (3) 確かな学力の育成
- (4) 外国語教育の推進
- (5) 保健・体力の増進
- (6) 安全・防災教育
- (7) 豊かな人間性の育成
- (8) 支援教育の推進
- (9) 教職員の資質向上
- (10) 幼稚園・認定こども園の教育について

2. 園児・児童・生徒数並びに教職員数等の推移

- (1) 市立幼稚園
- (2) 市立小学校
- (3) 市立中学校

3. 教職員数

- (1) 府費負担教職員の内訳
- (2) 市費負担教職員の内訳

4. 学校教育部主催行事一覧（教職員研修を除く）

5. 使用教科用図書一覧

6. 市立中学校卒業者の進路状況

7. 園児・児童・生徒の健康と安全

- (1) 学校給食
- (2) 認定こども園給食
- (3) 学校保健
- (4) 日本スポーツ振興センター災害共済給付状況

8. 奨学金制度

9. 就学援助制度

III. 社会教育

1. 社会教育委員

2. 社会教育についての努力目標

3. 社会教育事業

- (1) 社会教育振興課年間事業一覧
- (2) 成人教育事業
- (3) 文化財
- (4) 公民館

4. 青少年教育

- (1) 青少年課年間事業一覧（平成 29 年）
- (2) 青少年野外活動センターの事業（平成 29 年）
- (3) こども会活動
- (4) 放課後子ども教室
- (5) 上中条青少年センター

IV. その他の教育機関

1. 茨木市教育センター

- (1) 平成 29 年度 おもな業務
- (2) 学校の情報化
- (3) 教職員研修
- (4) 授業力向上指導員の活動
- (5) 教育相談
- (6) 支援教育・巡回相談
- (7) 不登校支援
- (8) 調査研究
- (9) 教育センターフォーラム・研究紀要
- (10) 相馬芳枝科学賞、科学教室

2. 茨木市立図書館

- (1) 運営方針
- (2) 平成 29 年度の重点目標と主な取組
- (3) 蔵書（資料所蔵）統計
- (4) 利用統計
- (5) 利用指標
- (6) 行事等の状況（平成 29 年度）

V. 茨木市青少年問題協議会

1. 茨木市青少年問題協議会の目的

2. 平成 29 年度活動方針

- (1) 青少年の健全育成の推進
- (2) 青少年の体験活動の充実
- (3) 若者の自立支援

3. 青少年指導員活動の充実

4. 青少年問題協議会関係事業一覧

- ◎ 市立教育施設所在一覧
- ◎ 市立学校園所在一覧
- ◎ 公民館所在一覧

I. 茨木市の教育行財政

1. 教育委員会

(1) 教育委員会の構成

職名	氏名	就任
教育長	岡田 祐一	平成 28 年 5 月 11 日
教育長職務代理者	京 兼 幸子	平成 19 年 1 月 1 日
委員	片 山 正 敏	平成 16 年 12 月 22 日
委員	篠 永 安 秀	平成 21 年 10 月 1 日
委員	武 内 由紀子	平成 22 年 4 月 1 日

(2) 教育委員会事務局等の組織

平成 29 年 4 月 1 日現在

教育長（岡田 祐一）

教育総務部長（乾 克文）次長（玉谷 圭太）次長（川上 成人）

教育政策課長（玉谷 圭太） 課長代理（吉田 透）

総務政策係長（小山 真季） 用度係長（吉田 透）

学務課長（小塩 憲司） 参事（西村 宏子）

課長代理（堤 義孝） 指導主事（竹内 洋平）

学事係長（堤 義孝） 保健給食係長（西村 宏子）

施設課長（有福 浩三） 課長代理（和田 雅史）

管理係長（和田 雅史） 施設係長（宮崎 茂生）

社会教育振興課長（辻田 新一） 課長代理（浅野 貴士）

社会教育係長（大野 正也） 公民館係長（浅野 貴士）

中央公民館長（続木 謙至）

歴史文化財係長（前田 聡志）

文化財資料館長（前田 恵子）

青少年課長（松本 栄子） 参事（山内 得世） 課長代理（青木 基史）

指導主事（村上 嘉浩）

事業推進係長（山内 得世） 指導育成係長（青木 基史）

上中条青少年センター所長（山内 得世）

野外活動センター所長（高橋 陽介）

中央図書館長（川上 成人） 参事（吉田 典子）

主幹（上辻 雅子） 主幹（寺田 慶次） 主幹（川越 一平） 主幹（濱口 友希）

主幹（永松 栄樹）

管理係長（永松 栄樹） 奉仕係長（上辻 雅子） 資料係長（濱口 友希）

中条図書館長（川越 一平） 水尾図書館長（中濱 真塩）

庄栄図書館長（寺田 慶次） 穂積図書館長（玉里 良広）

学校教育部長（小川 浩一） 次長（加藤 拓）
学校教育推進課長（加藤 拓） 参事（足立 英幸） 参事（尾崎 和美）
課長代理（新川 正知）
指導主事（関口 直樹） 指導主事（門田 翔） 指導主事（家村 憲治）
指導主事（岡田 知浩） 指導主事（大池 輝暢） 指導主事（笹川 千昌）
指導主事（村上 洋子）
総務係長（新谷 忍）

教職員課長（青木 次郎） 参事（牧原 貴代）
課長代理（谷 周平） 主幹（中條 晴喜）
教職員係長（中條 晴喜）

教育センター所長（尾崎 静恵）
所長代理（岡田 祥一）
指導主事（上村 仁師） 指導主事（小野 耕司） 指導主事（島田 隆史）

（3）平成 29 年度 教育に関する施政方針と事業概要（市長施政方針から）

◎ 「次代の茨木を担う人を育むまち」について

【幼稚園】

「めざせ！ 待機児童ゼロ」については、市立幼稚園 5 園の認定こども園化を実施するとともに、保育所等の建替え等により新たに 4 月から 297 人の受入れ体制を確保する。

【学校教育】

「ひとりも見捨てない全国トップレベルの教育」については、平成 29 年度からスタートする第 4 次 3 年計画「茨木っ子グローイングアッププラン」に基づき、小中学校に学習サポーターを配置し、きめ細かい学習支援を実施するとともに、英語指導助手の配置を拡充することで、保幼小中の子どもたちが、英語に親しむ時間を充実させるなど、児童生徒の学力向上の取組を更に充実する。

あわせて、小中学校への業務サポーター配置や業務改善サポートチームによる支援、ICT 活用による教育と校務の情報化・効率化を推進し、教員の多忙化の解消を図り、子どもと向き合う時間の確保及びその充実を努め、これまでの学校教育の取組を持続可能なものとする。

【図書館】

図書館については、市民の皆さまが北摂地区 7 市 3 町の公立図書館の利用ができるよう、平成 29 年度の早期に広域利用を実施する。

【青少年健全育成】

青少年健全育成については、子どもの安全・安心な居場所を提供するため、地域の皆さまの協力を得て、放課後子ども教室を実施しておりますが、新たに、市内事業者の協力を得ることで、更に豊かな体験活動の充実を努める。

【就学援助】

就学援助については、入学前の支援が必要な時期に、必要な支援ができるよう、就学援助費の支給額を拡充するとともに、支給時期を 3 月に変更する。

【学校施設】

学校施設の整備については、小学校特別教室へのエアコン設置やエレベーター設置工事など、快適な教育環境の整備を計画的に進める。

◎ 「都市活力があふれる心豊かで快適なまち」について

【文化財保護】

「歴史・文化のまち魅力の発信」については、文化財資料館を中心に、多角的な視点から本市の歴史資産を掘り起こすことで、まちの魅力を再発見し、郷土への愛着を更に深める取組を進めるとともに、次代を担う子どもたちが文化・芸術にふれる機会を拡充するため、主に小学生を対象とした体験型の芸術文化講座を実施する。

◎ 「対話重視で公平公正な市政運営」について

【公民館】

公民館活動については、公民館のコミュニティセンター化を進め、地域が自ら運営する拠点を確保するとともに、地域の課題解決や特色と個性を活かした住み良い活力のある地域コミュニティの実現をめざす。

2. 学校園施設

(1) 学校園施設状況

① 市立幼稚園 (13 園)

幼稚園名	所在地	創立 年月日	保 育 室	給 食 室	遊 戯 室	園地面積(m ²)		園舎面積(m ²)				
						全体	運動場	鉄筋	鉄骨	木造	その他	計
認定こども園 茨木幼稚園	片桐町 6-25	明治 26.10.18 (1893.10.18)	4	0	1	2,170	1,270	724	0	12	0	736
認定こども園 福井幼稚園	東福井二丁 目 2-32	昭和 28. 4. 1 (1953.4.1)	3	1	1	2,358	1,000	0	574	6	0	580
認定こども園 西 幼稚園	上穂積二丁 目 12-13	昭和 38. 7. 1 (1963.7.1)	5	0	1	2,550	1,650	870	0	6	0	876
北辰幼稚園 (休園中)	大字忍頂寺 150	昭和 41. 4. 1 (1966.4.1)	1	0	0	430	-	0	169	0	0	169
北 幼稚園	安威二丁目 28-16	昭和 42. 4. 1 (1967.4.1)	2	0	1	1,890	760	0	0	430	0	430
認定こども園 太田幼稚園	太田二丁目 9-23	昭和 47. 4. 1 (1972.4.1)	4	1	1	2,600	1,040	0	0	662	0	662
認定こども園 水尾幼稚園	真砂二丁目 3-2	昭和 48. 4. 1 (1973.4.1)	6	1	1	2,900	1,218	0	842	6	0	848
天王幼稚園	天王二丁目 13-5	昭和 48. 4. 1 (1973.4.1)	7	0	1	3,380	1,106	0	833	6	0	839
玉島幼稚園	平田二丁目 36-4	昭和 49. 4. 1 (1974.4.1)	5	0	1	2,300	1,170	0	702	8	0	710
沢池幼稚園	南春日丘三 丁目 2-3	昭和 50. 4. 1 (1975.4.1)	5	0	1	1,790	870	852	0	0	0	852
東雲幼稚園	学園南町 17-33	昭和 51. 4. 1 (1976.4.1)	5	0	1	2,400	1,160	0	654	0	0	654
郡 幼稚園	郡山二丁目 24-25	昭和 54. 4. 1 (1979.4.1)	2	0	1	2,330	1,390	0	477	0	0	477
庄栄幼稚園	総持寺一丁 目 1-17	昭和 55. 4. 1 (1980.4.1)	3	0	1	2,230	1,190	0	514	0	0	514
合 計			52	3	12	29,328	13,824	2,446	4,765	1,136	0	8,347

②市立小学校(32校)

学校名	所在地	創立年月日	教室数					校地面積(m ²)		校舎保有面積(m ²)					屋内運動場(m ²)		給食室(m ²)		プール(縦×横)(m)		
			普通	支援	特別	情報教育室	対話交流室	全体	運動場	鉄筋	鉄骨	木造	その他	計	構造	面積	構造	面積	大プール	コース	小プール
茨木小学校	片桐町8-40	明治6.3.18 (1873.3.18)	30	1	8	1	1	10,890	4,430	6,021	97	0	152	6,270	S	670	S	136	25X13	6	13X5
春日小学校	上穂東町5-18	明治7.10.9 (1874.10.9)	33	1	5	1	1	16,889	7,007	5,305	535	0	171	6,011	S	668	R	130	25X13	6	15X5
春日丘小学校	中穂積三丁目3-43	昭和26.9.1 (1951.9.1)	26	1	7	1	1	13,260	6,580	5,469	140	0	192	5,801	S	679	R	144	25X15	7	20X5
三島小学校	三島町3-13	明治16.2.20 (1883.2.20)	31	1	7	1	1	17,590	7,920	6,271	196	0	111	6,578	S	701	R	137	25X12	6	Φ20
中条小学校	新中条町7-12	昭和28.4.1 (1953.4.1)	31	1	7	1	1	14,060	6,760	5,924	146	0	171	6,241	S	661	S	152	25X13	6	15X5
玉櫛小学校	水尾三丁目1-51	明治7.6.1 (1874.6.1)	25	2	6	1	1	12,650	5,570	5,004	242	0	97	5,343	R	796	S	178	25X13	6	15X5
安威小学校	安威二丁目21-23	明治12.10.23 (1879.10.23)	14	1	5	1	0	11,262	6,282	3,558	77	0	198	3,833	S	671	S	145	25X13	6	15X5
玉島小学校	玉島二丁目11-23	昭和10.2.11 (1935.2.11)	30	3	6	1	1	15,690	8,470	5,815	53	0	53	5,921	S	670	S	153	25X13	6	15X5
福井小学校	東福井二丁目4-20	明治6.7.25 (1873.7.25)	15	1	6	1	1	12,585	6,531	3,760	67	0	185	4,012	S	670	R	122	25X13	6	15X5
清溪小学校	大字泉原857	明治41.4.1 (1908.4.1)	6	1	5	1	0	12,557	6,520	2,457	200	0	31	2,688	S	672	R	101	25X11	5	15X5
忍頂寺小学校	大字忍頂寺31-2	明治40.10.1 (1907.10.1)	6	1	5	1	0	12,870	4,310	2,682	31	0	122	2,835	S	672	R	101	25X11	5	15X5
大池小学校	大池一丁目5-8	昭和39.4.1 (1964.4.1)	33	1	7	1	1	17,490	8,970	5,919	156	0	151	6,226	S	734	S	169	25X15	7	15X5
豊川小学校	宿久庄五丁目14-5	明治32.4.1 (1899.4.1)	19	1	6	1	1	16,310	9,110	4,416	85	0	175	4,676	S	718	R	159	25X13	6	10X5
中津小学校	中津町10-15	昭和44.4.1 (1969.4.1)	29	1	7	1	1	9,760	4,750	5,714	137	0	164	6,015	R	764	S	254	25X11	6	10X5
東小学校	鮎川二丁目5-23	昭和45.4.1 (1970.4.1)	32	1	6	1	1	19,075	10,355	5,962	55	0	55	6,072	S	670	S	200	25X13	6	15X5
水尾小学校	水尾四丁目7-16	昭和46.4.1 (1971.4.1)	28	2	7	1	1	16,910	8,800	5,476	305	0	210	5,991	S	670	S	163	25X13	6	10X5
郡山小学校	新郡山二丁目30-18	昭和46.10.1 (1971.10.1)	24	1	6	1	1	21,343	8,450	4,947	99	0	209	5,255	S	670	S	165	25X13	6	15X5
太田小学校	花園一丁目21-26	昭和47.4.1 (1972.4.1)	35	1	8	1	1	20,690	9,640	6,448	180	0	168	6,796	S	670	S	157	25X13	6	15X5
天王小学校	天王二丁目13-57	昭和48.4.1 (1973.4.1)	33	1	7	1	1	20,699	10,630	6,177	397	0	165	6,739	S	670	S	189	25X13	6	15X5
葦原小学校	新和町13-50	昭和49.4.1 (1974.4.1)	32	1	7	1	0	18,970	9,860	5,960	192	0	163	6,315	S	670	S	159	25X13	6	15X5
郡小学校	郡五丁目26-23	昭和50.4.1 (1975.4.1)	16	4	5	1	1	22,000	9,330	4,053	188	0	135	4,376	S	670	S	159	25X13	6	15X5
庄栄小学校	庄二丁目26-5	昭和50.4.1 (1975.4.1)	19	1	5	1	0	18,127	8,850	4,425	112	0	147	4,684	S	672	S	160	25X13	6	15X5
沢池小学校	南春日丘三丁目11-6	昭和51.4.1 (1976.4.1)	30	1	7	1	1	19,800	8,360	5,647	115	0	174	5,936	S	670	S	160	25X13	6	15X5
畑田小学校	畑田町3-31	昭和53.4.1 (1978.4.1)	16	1	6	1	1	16,248	8,348	4,136	113	0	184	4,433	S	671	S	159	25X13	6	15X5
山手台小学校	山手台四丁目9-4	昭和53.4.1 (1978.4.1)	32	2	7	1	1	22,956	11,604	6,259	60	0	174	6,493	S	670	S	159	25X13	6	13X6
耳原小学校	耳原二丁目20-55	昭和54.4.1 (1979.4.1)	36	2	8	1	1	20,468	10,571	6,988	61	0	171	7,220	S	670	S	160	25X13	6	15X5
穂積小学校	下穂積二丁目6-62	昭和56.4.1 (1981.4.1)	23	1	5	1	0	18,848	8,317	4,855	67	0	184	5,106	S	672	S	161	25X13	6	15X5
白川小学校	白川一丁目4-1	昭和56.4.1 (1981.4.1)	25	1	7	1	1	20,000	9,434	5,344	96	0	176	5,616	S	672	S	174	25X13	6	15X5
東奈良小学校	東奈良二丁目5-36	昭和57.4.1 (1982.4.1)	24	1	7	1	0	18,153	10,049	5,463	114	0	67	5,644	S	672	S	162	25X13	6	15X5
西小学校	北春日丘三丁目12-23	昭和59.4.1 (1984.4.1)	14	1	6	1	0	21,197	7,588	4,414	58	0	179	4,651	S	676	S	173	25X13	6	15X5
西河原小学校	西河原北町7-33	昭和59.4.1 (1984.4.1)	16	1	6	1	1	20,546	11,951	4,394	67	0	184	4,645	S	676	S	172	25X13	6	15X5
彩都西小学校	彩都あさぎ五丁目8-1	平成16.4.1 (2004.4.1)	36	1	7	1	0	30,997	11,160	8,339	0	0	0	8,339	R	1,042	R	266	25X13	6	15X5
合計			799	41	204	32	23	560,890	266,507	167,602	4,441	0	4,718	176,761	-	22,199	-	5,179		-	-

③市立中学校（15校）

学校名	所在地	創立年月日	教室数				校地面積(㎡)		校舎保有面積(㎡)					屋内運動場(㎡)		プール(縦×横)(m)	
			普通	支援	特別	情報教育室	全体	運動場	鉄筋	鉄骨	木造	その他	計	構造	面積	大プール	コース
養精中学校	駅前四丁目7-60	昭和22.4.1 (1947.4.1)	27	1	11	1	17,860	7,750	6,442	203	138	421	7,204	S	780	25X21	6
西中学校	見付山二丁目5-4	昭和26.4.1 (1951.4.1)	30	1	11	1	15,850	7,390	6,517	438	0	0	6,955	R	1,691	25X15	8
東中学校	末広町7-4	昭和27.4.1 (1952.4.1)	31	1	11	1	19,210	8,720	6,495	265	64	390	7,214	S	813	25X13	6
北辰中学校(廃校)	大字泉原20-2	昭和37.4.1 (1962.4.1)	6	0	7	1	30,130	10,270	2,868	61	0	231	3,160	S	675	25X15	7
豊川中学校	藤の里一丁目16-8	昭和22.4.1 (1947.4.1)	30	2	12	1	20,490	12,180	6,597	137	0	311	7,045	S	787	25X15	7
南中学校	若園町6-41	昭和42.4.1 (1967.4.1)	34	2	12	1	20,320	10,710	7,308	113	48	259	7,728	S	783	25X15	7
三島中学校	西河原一丁目17-10	昭和46.4.1 (1971.4.1)	33	1	11	1	20,470	10,280	6,810	229	0	283	7,322	S	792	25X15	7
北中学校	南安威三丁目10-3	昭和49.4.1 (1974.4.1)	30	1	12	1	21,273	11,823	6,164	167	0	295	6,626	S	792	25X15	7
東雲中学校	学園南町21-7	昭和49.4.1 (1974.4.1)	27	1	10	1	22,010	9,720	6,353	78	0	304	6,735	S	791	25X15	7
天王中学校	沢良宜西三丁目8-5	昭和52.4.1 (1977.4.1)	26	2	11	1	19,744	10,824	6,242	166	0	374	6,782	S	792	25X15	7
西陵中学校	南春日丘一丁目19-6	昭和55.4.1 (1980.4.1)	30	1	12	1	22,743	9,724	6,864	202	0	300	7,366	S	792	25X15	7
平田中学校	平田一丁目8-20	昭和56.4.1 (1981.4.1)	19	1	10	1	22,969	13,873	5,215	126	0	327	5,668	S	792	25X15	7
北陵中学校	山手台一丁目23-10	昭和58.4.1 (1983.4.1)	20	1	9	1	22,807	8,429	5,351	62	0	183	5,596	S	796	25X15	7
太田中学校	花園一丁目6-10	昭和60.4.1 (1985.4.1)	19	1	9	1	22,847	11,725	5,719	119	0	286	6,124	S	799	25X15	7
彩都西中学校	彩都あさぎ4-6-7	平成20.4.1 (2008.4.1)	23	2	10	1	25,104	10,935	7,033	0	0	0	7,033	R	1,635	25X15	7
合計			385	18	158	15	323,827	154,353	91,978	2,366	250	3,964	98,558	-	13,510	-	-

Ⅱ. 学校園教育

1. 第4次3か年計画 茨木っ子グローイングアッププランの推進

(1) 保幼小中連携教育の推進

【保幼小中連携の推進】

- ① ブロック連携カリキュラムを活用し、何のために連携し、子どもたちにどんな力をつけたいのかを全教職員が共通理解し、義務教育終了時点で自ら進路を切り拓く子どもの育成をめざす。
- ② 中学校ブロック連携コーディネーターを中心として、中学校教員が小学校で授業を行うなど教職員が他校種での授業観察や授業を行う。
- ③ 児童が中学校に進学した際、新しい環境へ移行する段階で、円滑に学習や生活を送ることができるよう、方向性の共有や取組みのちがいをなくす小・小連携に努める。
- ④ 中学校ブロックの連携担当者会議を定期的で開催し、ブロック内の連携推進に努める。
- ⑤ 各教科・養護保健・食育・支援教育・生徒指導などの部会について、ブロックの連携組織を広げる。
- ⑥ 中学校ブロックの教員が参加する合同授業研究会を年1回以上開催し、授業内容や指導方法などの工夫・改善に努めるとともに、合同授業研は、学びのシンポジウム(分科会)として、他ブロックの教職員に公開する。
- ⑦ 小学校においては、児童が入学当初から円滑な学校生活が始められるよう、就学前の幼児の体験入学や保護者への情報提供に努める。
- ⑧ 学校事務の共同実施を行うことで、学校事務の整備および充実を図り、事務の効率化並びに学校運営に関する支援を行う。あわせて、中学校ブロックの行事の調整や支援なども行い、連携の推進に努める。
- ⑨ 児童・生徒が入学当初から円滑な学校生活が始められるよう、異なる校種間での学校園行事や園児・児童生徒間の交流などを行う。また、高等学校や大学などと連携し、子どもたちの「生き方」を考える取組みを行う。

(2) 業務改善の推進

【業務改善の推進】

- ① 「業務改善サポートチーム」による訪問や研修を有効活用しながら、会議や行事のあり方、校務分掌、教職員フォルダの整理などから「できること」「必要なこと」を選択し、全教職員が共通認識をもって業務改善を行う。
- ② 業務サポーターを有効活用し、教員の事務負担を軽減するとともに、計画的、効率的な業務のあり方を検討する。
- ③ 中学校ブロックの学校事務共同実施を通じて、教員が子どもと向き合う時間の確保と充実を事務職員の立場から支援する。

【多忙化の解消・負担軽減】

- ① 市内統一ルールである「全校一斉退校日」や「部活動休養日」を着実に実行する。
- ② 教員の働き方に対する意識改革、組織的な業務の効率化を進め、教員の時間的・精

神的余裕を生み出し、子どもと向き合う時間の確保とその充実に努める。

(3) 確かな学力の育成

【学力向上】

- ① 学力向上担当者の役割を明確にし、担当者が有効に機能し、学校全体で学力向上の取組みを計画的、持続的に推進できる校内組織づくりに努める。
- ② 校内の授業研究を活性化させるとともに、モデル授業やICT機器を効果的に活用し、「茨木っ子版授業 Standard」を各教科に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを推進する。
- ③ 実践的な教育研究を組織的・計画的に推進するとともに、常に研修内容や研修方法の改善・充実に努め、授業改善を進める。また、指導力向上のために、積極的に研修会に参加する。

【児童・生徒への指導の充実】

- ① 学習サポーターを有効に活用し、一人ひとりの児童・生徒に対するきめ細かな指導を充実させる。
- ② 放課後、長期休業中や中学校におけるテスト前学習等を活用し、各校の状況に応じた学力向上の取組みを実施する。その際は学習支援者等による支援を活用し、より個に応じた取組みとなるよう努める。

(4) 外国語教育の推進

【就学前の指導】

- ① 「英語で遊ぼうデー」を活用し、遊びを通して外国語の音声やリズムに慣れ親しみ、子どもの外国語への興味関心を高めるとともに、コミュニケーションを図る取組みを行う。

【小学校の指導】

- ① 外国語による言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため、3・4年生の外国語活動と5・6年生の「外国語」との接続を意識した年間計画を立案し、指導と評価の一体化を図る。
- ② 英語指導助手の有効活用や「英語シャワーデー」の実施により、児童が外国語の表現に触れる機会が増えるよう、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫改善を行う。
- ③ 発達段階に応じて外国語への興味関心を高めるため、短時間学習を実施し、外国語の音声やリズム、表現などに触れる学習活動を行う。

【中学校の指導】

- ① 「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「読む」「書く」の4技能5領域をバランスよく指導するとともに、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するために指導方法の工夫改善を図る。
- ② 各校の「CAN-DOリスト」に基づいた授業と評価を行うとともに、各学年の学習到達目標の達成状況を把握し、指導方法や評価方法の改善に努める。
- ③ 英語指導助手の有効活用や「英語シャワーデー」の実施により、生徒が実際のコミュニケーションにおいて英語を活用できる能力を育成する。

【小中連携】

- ① 小中学校の外国語教育推進担当者が連携を図り、児童生徒の実態に応じた外国語活動や英語の授業の指導を研究することにより、児童生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ② 卒業段階で「英語を使って何ができるか」という視点で児童生徒の身に付けたい英語力を明確にし、系統的な指導ができるよう、中学校ブロックごとに小中9年間の「CAN-DOリスト」を作成する。

(5) 健康・体力の増進

【体力向上】

- ① 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「小中6年間スポーツテスト」の分析結果から3か年計画の立案、見直しを行い、自校の体力づくりの取組みを推進する。
- ② 立命館大学と連携した「体力向上プログラム」を活用するなど、体育・保健体育の授業づくりについての研究を進め、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と思う子どもの育成を図る。
- ③ 「茨木っ子運動」や「体づくり運動」を保育や保健体育の授業に取り入れることで、幼児期からの体力づくりや運動習慣の基盤づくりを進める。

【食育】

- ① 食育推進担当者を中心とした食育推進のための校内組織を明確化し「食に関する指導年間計画」の作成、見直しを進め、教育活動全体において計画的に食に関する指導を行う。
- ② 保幼小中連携支援体制を活用し、各校園所において効果的な食に関する指導を行う。

(6) 安全・防災教育

【安全教育】

- ① 警察・市道路交通課による交通安全教室を活用するなどして、あらゆる場面における危険について理解し、安全な歩行、自転車の利用ができる能力を育成する。
- ② 「子どもが暴力から身を守るワーク」や警察と連携した防犯教室等を活用し、園児・児童・生徒が自ら身を守る力を育成し、犯罪被害等の防止に努める。
- ③ 通学園路の状態を交通安全面及び防犯面から把握し、教育委員会と連携して安全対策を進め、子どもが実際に校区や通学園路の危険箇所を確認するなど、危険予測・回避能力を育成する取組みを推進する。

【防災教育】

- ① 消防署による防災教育等を活用するなどして、災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な行動がとれる能力を育成する。
- ② 地震・火事・不審者等の事態を想定した実践的な訓練を実施する。特に、地震については休憩時間、授業中、登下校園中など、様々な想定における避難方法を指導する。

(7) 豊かな人間性の育成

【生徒指導】

- ① いじめは重大な人権侵害事象として根絶すべき最重要課題であり、児童・生徒の生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れがあることから、「学校いじめ防止基本

方針」に基づき、いじめ防止のための組織を中核とする校内の協力体制を確立し、適切な対策を推進する。

- ② いじめについては「どの学校でも、どの子にも起こりうる」ものであることを十分認識したうえで、相談窓口の周知や広報に努めるとともに、定期的にいじめアンケート等を実施することで迅速かつ的確な実態把握に努める。
- ③ 不登校児童・生徒に対し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を行い、学校復帰の実現や中学校卒業後の進路を支援する。
- ④ 本市教育センターの教育相談、不登校児童・生徒支援室「ふれあいルーム」等を適切に利用し、不登校児童・生徒の早期学校復帰をめざした取組みを推進する。
- ⑤ 暴力行為等の防止については、全教職員の一致協力した生徒指導体制のもと、保幼・小・中学校間をはじめ関係機関等とのネットワークを活用し、専門家や地域人材等の外部人材も含めたチームによる指導・支援の取組みに努める。

【道徳教育】

- ① 教科化の全面実施に向け、これまでの道徳教育全体計画を見直し、学校における道徳教育の重点目標を明確にすることで、より具体的で児童・生徒の実態に即した道徳教育をめざす。
- ② 道徳教育推進教師を中心に、「道徳の時間」を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。

【人権教育】

- ① 同和教育をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて、校内組織体制を整備して人権教育を推進する。
- ② 校内研修等で教職員の人権及び人権問題に対する深い知識と認識を培い、指導者としての人権感覚・人権意識を高める。

(8) 支援教育の推進

- ① 「ともに学び、ともに育つ」を基本に、一人ひとりの障がいの状況や教育的ニーズに応じた合理的配慮を行うとともに、ユニバーサルデザインによる授業づくりに取り組む。
- ② 通常の学級に在籍する発達障がい等のある児童・生徒に対する支援を充実させるために、個別の指導計画に基づいて学習サポーターを効果的に活用する。
- ③ 通級指導教室に通級する児童・生徒について、通級指導教室における学びが通常の学級においても活かせるよう校内の支援体制を充実させる。
- ④ 支援学級在籍児童・生徒について、児童・生徒一人ひとりの障がいの種別・状況等に応じた教育課程の充実に努める。
- ⑤ 乳幼児期から学校卒業までを見通した一貫した支援が計画的、組織的に行われるよう、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用する。
- ⑥ 支援学校の巡回相談及び市教委が派遣する巡回相談員、合理的配慮指導員を効果的に活用する。

(9) 教職員の資質向上

- ① 各学校園内において、幼稚園教育要領及び学習指導要領に基づく教育活動が円滑に

実施されるよう、各学校園の課題に応じた実践的な教育研究を組織的・計画的に推進するとともに、常に研修内容や研修方法の改善・充実に努める。

- ② 本市教育委員会及び府教育センターが実施する各種の教職員研修を長期的な計画のもとに、可能な限りすべての教職員が受講し、その成果を各学校園全体の教育活動に還元するよう努める。
- ③ 校長のリーダーシップのもと、教職員を組織的・継続的に育成するため、首席や指導教諭等を活用し、日常的なOJTを推進することで、教職員全体の指導力向上に努める。
- ④ すべての教職員は、教育者としての識見と人間性を高めるとともに、教育に携わる公務員としての使命を自覚し、教科等の専門的な知識・技能と実践的な指導力の向上をめざして日々研鑽と修養に努めるとともに、相互に資質を高めあう職場環境づくりに努める。
- ⑤ 初任者をはじめとする教職経験年数の少ない教職員の育成にあたっては、2年目研修や「授業力向上研修」「いじめ不登校シンポジウム」等、市主催の研修を有効に活用する。また各学校においても、研修体系の構築、指導体制の充実、相談体制の確立に努め、組織的・継続的に育成する。

(10) 幼稚園・認定こども園の教育について

① 幼稚園教育の役割について

近年の核家族化や少子化・情報化・国際化など幼児を取り巻く環境が大きく変化する中、幼稚園では、幼稚園教育要領に基づき、社会情勢や保護者のニーズにも応えながら時代に即した幼稚園教育の実践に努めているところである。

幼児の発達には家庭・地域社会そして幼稚園と連続的に営まれていく生活の中で、積み重ねられる様々な経験や体験によって促されるが、近年社会情勢の変化等により、その連続性が保ちにくい現状もあり、基本的な生活習慣や他者との関係性など、発達に必要な活動を積み重ねていく幼稚園教育に、大きな責任や期待がよせられている。

また幼稚園生活の中で“遊び”を十分に確保することが何よりも必要で、それは遊びにおいて幼児が主体的な力を発揮し、生きる力の基礎ともいえるべき「生きる喜び」を味わうことができるからである。幼児は能動的に対象にかかわって自己表出して、そこから外の世界に対する好奇心を育み、探索して考え、知識を蓄えるという生涯にわたる人間形成の基礎を育んでいく。

このようなことが、幼稚園教育の大きな役割であり、各幼稚園では、教員との信頼関係を基に幼児の特性を踏まえ、幼児が身近な環境に働きかけ、教員とともに創りあげていく創造的な教育を求め、下記を教育内容の重点として、研究・実践を進めている。

- ・ 幼児が自分の願いや期待をもって活動に取り組めるような、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。
- ・ 遊びを中心とした生活を通して、幼稚園修了までに育つ「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度、基本的な生活習慣などが身につくようにする。
- ・ 自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる

幼児期の発達の特徴を踏まえ、健やかな成長を促す指導を行うようにする。

- ・ 教員は、幼児の特性や可能性をいかすため、計画的に環境を構成し、活動の場面に応じて様々な役割を果たしながら一人ひとりに応じた質の高い総合的な教育ができるようにする。
- ・ 幼児期の教育・保育を総合的に提供することを目的とした「子ども・子育て支援新制度」を踏まえ、幼稚園教育の基本をいかした子育て支援機能を活用し、「親と子が育つ場」としての幼児教育のセンター的役割を発揮する。

② 市立幼稚園の教育実践について

市立幼稚園では、豊かな体験等を通して生きる力の基礎を培うため、幼児の心身の発達特徴を理解し、地域の実態や保護者の願いを考慮しながら、各幼稚園が創意工夫して独自の教育課程を編成している。

遊びを中心とした生活を通して、教員が専門性をいかし、一人ひとりに応じた総合的な指導を行い、集団との関わりの中で、自己発揮できるよう教育にあたっている。

また、幼児が互いの人権を尊重しあえる人間として、また、思いやりと協調性に富み、相手の思いに共感できる人間として成長できるように、幼児一人ひとりの人格が尊重される集団づくりに努めている。また、幼児と教員、あるいは幼児同士が温かい人間関係を結んでいけるように、教員はつねに幼児の精神的な拠り所やモデルとしての役割を果たし、教職員全員が協力して創意工夫のある教育実践を行っている。

幼児期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が、豊かに育つといわれている。幼児にとって意味のある「発達を促す遊び」は子どもをただ放っておいてもうまれてこない。

そこで、幼稚園では、幼児の発達に必要な経験や体験を見通して、教員があらかじめ、綿密な指導計画を立て、継続的な遊びが行える環境を整えている。

幼稚園の様々な遊びや活動を通して、うまく人と関われるようになったり、言語が豊かになったり、自然の美しさや不思議さなどに気づいたり、運動することが好きでスムーズに体を動かす運動能力や体力が身についたりなど、幼児期にふさわしい教育が推進されるよう努めている。

また、茨木っ子グローイングアッププランの保幼小中連携教育の推進を受け、幼稚園から小学校への指導の流れが一貫したものとなり、幼稚園教育が小学校以降の生活や学習の基盤となるよう、幼・小連携を図ることで、接続期の教育を適切に行い、幼稚園教育から小学校の学習へ生活や学びが連続的なものになるよう努めている。

③ 市立幼稚園における教職員の資質向上及び教育研究について

日々の保育の中で、教員が一人ひとりの幼児に応じた適切な指導を行うことは、何よりも大切である。幼稚園での教員との出会いは、その後の幼児の成長・発達に大きな影響を及ぼすものである。そのことを踏まえ、本市教育委員会は、教員自らの資質と人格向上、専門的知識と実践的指導力の向上を図るため、教員研修を実施している。さらに、各幼稚園でも年間計画及び努力目標の達成に向けて、定期的に園内研修を実践している。

幼児の進学時における不必要な段差解消のため、本市教育委員会が中心となって中

学校ブロックで保・幼・小・中連携を進めている。幼稚園においては、地域の保育所や小学校で子ども同士の交流や合同研修会、共通の課題に向けての会議を進める等の連携を行っている。

また、本市教育研究会幼稚園部においては、教員がそれぞれ3部会に分かれ、下記のテーマで研究し、実践に取り組んでいる。

幼稚園第1部会（表現）	「幼児が生き生きと表現するためには」
幼稚園第2部会（言葉）	「子どもの言葉をより豊かにするには」
幼稚園第3部会（環境）	「幼児が生き生きと活動できる環境とは」

2. 園児・児童・生徒数並びに教職員数等の推移

(1) 市立幼稚園

年度	園児数	年 間 増減数	園 数	学級数	1学級平 均園児数	教 職 員 数			茨木市の 人口
						男	女	計	
17	1,514	△83	14	52	29	0	67	67	266,529
18	1,460	△54	14	51	29	0	66	66	267,576
19	1,352	△108	14	48	28	0	65	65	269,850
20	1,325	△27	14	49	27	0	67	67	271,346
21	1,234	△91	14	47	26	0	63	63	273,327
22	1,152	△82	14	46	25	0	63	63	273,786
23	1,135	△17	14	44	26	0	59	59	275,002
24	1,143	8	14	44	26	0	58	58	276,411
25	1,102	△41	13	42	26	0	56	56	277,065
26	1,094	△8	13	42	26	0	55	55	278,112
27	1,057	△37	13	41	26	0	56	56	279,030
28	977	△80	13	39	25	0	55	55	279,854
29	1009	32	13	40	25	2	72	74	280,856

※ 茨木市の人口については、各年度の4月末時点の数値を記載。

※ それ以外については、各年度の5月1日時点の数値を記載。

(2) 市立小学校（平成29年5月1日現在）

年度	児童数	年 間 増減数	学校数	学級数	1学級平 均児童数	教 職 員 数			茨木市の 人口
						男	女	計	
17	15,427	361	32	539	29	237	573	810	266,529
18	15,879	452	32	563	28	245	592	837	267,576
19	16,373	494	32	587	28	256	610	866	268,907
20	16,487	114	32	603	27	270	617	887	271,346
21	16,740	253	32	622	27	292	626	918	273,327
22	16,834	94	32	630	27	303	633	936	273,786
23	16,843	9	32	645	27	329	636	965	275,002
24	16,728	△115	32	641	27	330	628	958	276,411
25	16,586	△142	32	651	26	343	629	972	277,065
26	16,585	△1	32	653	26	346	629	975	278,112
27	16,517	△68	32	654	26	354	619	973	279,030
28	16,381	△136	32	657	25	363	618	981	279,854
29	16,404	23	32	675	25	370	627	997	280,856

※ 茨木市の人口については、各年度の4月末時点の数値を記載。

※ それ以外については、各年度の5月1日時点の数値を記載。

(3) 市立中学校 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

年度	生徒数	年 間	学校数	学級数	1学級平 均生徒数	教 職 員 数			茨木市の 人口
		増減数				男	女	計	
17	6,732	△18	14	203	33	239	179	418	266,529
18	6,661	△71	14	202	33	234	182	416	267,576
19	6,682	21	14	205	33	238	189	427	269,850
20	6,856	174	15	213	32	247	200	447	271,346
21	7,073	217	15	220	32	247	211	458	272,327
22	7,298	225	15	231	32	261	223	484	273,786
23	7,568	270	14	242	32	265	230	495	275,002
24	7,772	204	14	248	32	265	240	505	276,411
25	7,916	144	14	265	30	288	249	537	277,065
26	7,845	△71	14	266	30	288	251	539	278,112
27	7,883	38	14	272	29	288	257	545	279,030
28	7,822	△61	14	270	29	286	255	541	279,854
29	7,855	33	14	276	29	292	252	544	280,856

※ 茨木市の人口については、各年度の4月末時点の数値を記載。

※ それ以外については、各年度の5月1日時点の数値を記載。

3. 教職員数

(1) 府費負担教職員の内訳

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学校別	性別	校長	教頭	首席 指導教諭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	講師	事務 職員	臨時 技師	計
小学校	男	25	25	15	265	0	0	22	18	0	370
	女	7	7	14	482	35	16	40	23	3	627
中学校	男	14	13	12	212	0	0	28	13	0	292
	女	0	1	7	203	15	3	16	7	0	252
計		46	46	48	1,162	50	19	106	61	3	1,541

※再任用者を含む。

※養護教諭に養護助教諭(欠員補充)を含む。

※栄養教諭に指導栄養教諭を含む。

※事務職員に臨時主事(欠員補充)を含む。

(2) 市費負担教職員の内訳

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学校別	性別	専任園長	教諭	校務員	学校 調理員	看護師	計
幼稚園	男	0	2	0	0	0	2
	女	12	55	0	0	5	72
小学校	男	0	0	16	1		17
	女	0	0	10	43		53
中学校	男	0	0	10	0		10
	女	0	0	0	0		0
計		12	57	36	44	5	154

4. 学校教育部主催行事一覧（教職員研修を除く）

実施月	行 事	担 当 課
8 月	なかよしキャンプ やってみようキャンプ 小学校連合水泳大会	学校教育推進課 教育センター 学校教育推進課
10 月	小学校連合運動会 人権作品審査会（絵画・ポスター） やってみよう運動会	学校教育推進課 学校教育推進課 学校教育推進課
11 月	総合展 茨木市相馬芳枝科学賞 小学校連合音楽会 中学校連合音楽会 人権作品審査会（作文・詩）	学校教育推進課 教育センター 学校教育推進課 学校教育推進課 学校教育推進課
12 月	未来ミーティング	学校教育推進課・市民生活相談課
1 月	子ども人権フォーラム 小学校連合お話し会	学校教育推進課 学校教育推進課
2 月	教育センターフォーラム	教育センター

5. 使用教科用図書一覧

小学校

種 目	発 行 者	書 名
国 語	東京書籍	新編 新しい国語
書 写	光村図書出版	書写
社 会	日本文教出版	小学社会
地 図	帝国書院	楽しく学ぶ 小学生の地図帳
算 数	日本文教出版	小学算数
理 科	啓林館	わくわく理科
生 活	学校図書	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ
音 楽	教育芸術社	小学校の音楽
図画工作	日本文教出版	図画工作
家 庭	開隆堂出版	小学校 わたしたちの家庭科
保 健	学研教育みらい	新・みんなの保健

中学校

種 目	発行者名	書 名	
国 語	東京書籍	新編 新しい国語	
書 写	光村図書出版	中学書写 一・二・三年	
地 図	帝国書院	中学校社会科地図	
社 会 地理的分野	日本文教出版	中学社会 地理的分野	
社 会 歴史的分野	帝国書院	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	
社 会 公民的分野	帝国書院	社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして	
数 学	学校図書	中学校数学	
理 科	東京書籍	新編 新しい科学	
音 楽	教育芸術社	中学生の音楽・器楽	
美 術	日本文教出版	美術1 出会いと広がり 美術2・3上 学びの深まり 美術2・3下 美の探求	
保健体育	東京書籍	新編 新しい保健体育	
技 術	東京書籍	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	
家 庭	開隆堂出版	技術・家庭(家庭分野)	
英 語	1・2年	開隆堂出版	SUNSHINE ENGLISH COURSE
	3年	三省堂	NEW CROWN ENGLISH SERIES NewEdition3

6. 市立中学校卒業者の進路状況

(平成30年3月卒業)

	卒業生数	進学した生徒				就職した生徒		その他	
		進学した生徒	進学率	定時制・通信制(再掲)	進学率	就職した生徒	就職率	その他	その他率
男	1,354	1,334	98.5%	31	2.29%	9	0.66%	9	0.66%
女	1,276	1,261	98.8%	34	2.66%	1	0.08%	5	0.39%
計	2,630	2,595	98.7%	65	2.47%	10	0.38%	14	0.53%

7. 園児・児童・生徒の健康と安全

(1) 学校給食

① 給食の実態

ア) 対象 市立小学校児童全員(32校 16,381人)(平成29年5月1日現在)

イ) 型 週5回完全給食

ウ) 給食調理員 52名

エ) 給食の内容

ごはん 低学年 70g、中学年 80g・高学年 90g(精米重量として)

パン 低学年 50g・中学年 60g・高学年 70g(小麦粉重量として)

配合(小麦粉100としてのパーセント比)

文部科学省基準 砂糖：油脂：脱脂粉乳=4:4:4

(献立によりジャム・チーズ・味付け海苔等をつける。)

牛乳 200ml(びん入)1本

おかず 栄養教諭等が原案を作成し、献立作成委員会において審議のうえ決定する。

オ) 食物アレルギー対応の内容

市内全校で鶏卵・うずら卵の除去食を実施。

② 給食による児童の栄養摂取状況

区分	エネルギー (kcal)	たん白質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食物繊維 (g)
					A (μ gRE)	B ₁ (mg)	B ₂ (mg)	C (mg)	
文科省基準 (平均)	640	24.0	350	3.0	170	0.40	0.40	20	5.0
茨木市 (H29年5月)	620	25.1	332	1.9	279	0.32	0.53	20	3.8

(2) 認定こども園給食

① 給食の実態

ア) 対 象 市立認定こども園 (5園うち2園は2号支給認定区分のみ)

351人(平成29年5月1日現在)

イ) 型 完全給食 (提供日は支給認定区分による)

ウ) 給食調理員 23人

エ) 給食の内容

目 標

- 1 子どもの成長、発育に必要な栄養をバランスよくとる。
- 2 偏食にならないよう、いろいろな食べ物をとる。
- 3 食事を通じて食物に興味を持ち、健康について考える姿勢を身につける。
- 4 食生活に必要な、基本的な習慣を身につける。

○ 主食 (ごはん) 3歳児 45g 4歳児 50g 5歳児 55g (精米重量として)

○ 安全な食品の購入に努めています。(添加物、遺伝子組換え食品の排除等)

米、肉、卵、野菜、果物については、全て国産のものを使用しています。一部の魚介、菓子、調味料、豆腐等、原材料や原材料の一部が、日本では栽培量や漁獲量が少ない等の理由により、外国産の場合があります。

○ アレルギー等に配慮しています。(アレルギー対応食品の購入等)

油はなたね油 (必要に応じてA-1油)、酢は純米酢を使っています。

○ 給食による児童の栄養摂取状況

昼食およびおやつで食事摂取基準の45%を給与目標としています。

食事摂取基準 (1日あたり)	エネルギー (kcal)	たんぱく 質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミンA (μ gRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)	食塩相当量 (g)
3~5歳児	558	11~22	12~18	239	2.5	203	0.32	0.36	20	2.0

※食事摂取基準：1日に必要とする各栄養量のこと

※給与目標：目標とする提供量のこと

(3) 学校保健

① 茨木市学校保健会の概要

ア) 学校保健の研究及び普及発達に寄与することを目的とする。

イ) 組織

茨木市教育委員会教育長、市立幼・小・中学校の学校園医、学校園歯科医、学校園薬剤師、茨木市医師会保健対策委員会委員、茨木保健所長、市立幼・小・中学校園長と保健関係職員、市教育委員会保健関係職員、関係行政機関の職員で組織する。

ウ) 役員

茨木市教育委員会教育長を会長とし、市教育委員会教育総務部長と市立幼・小・中学校の学校園医、学校園歯科医、学校園薬剤師、及び校園長それぞれ1人を副会長とする。

理事は茨木保健所長、茨木市医師会保健対策委員会委員と市教育委員会保健関係職員、及び市立幼・小・中学校の学校園医、学校園歯科医、学校園薬剤師と保健関係職員、関係行政機関の職員の若干人とする。

エ) 役員の仕事

- ・会長は本会を代表する。
- ・副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- ・理事は基本的な事項を審議する。

(4) 日本スポーツ振興センター災害共済給付状況

(平成 29 年度)

校園	園児・児童・生徒数 (人)	給付件数 (件)	給付割合% (件/人)	給付金額 (円)
幼稚園	1,009	46	4.6	111,160
小学校	16,404	1,532	9.3	4,012,056
中学校	7,855	2,242	28.5	16,085,952

8. 奨学金制度

向学心があるにもかかわらず、経済的な理由から高等学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校などにおける修学が困難な者に対し、学資の助成を行うものである。

- ・昭和 58 年から実施
- ・平成 7 年度から市民税非課税世帯の学生にも支給
- ・平成 15 年度から、一人 月額 10,000 円 (私立学校)
5,000 円 (国・公立学校)
- ・平成 18 年度から対象に特別支援学校を加え、支給額の引き上げ
一人 月額 13,000 円 (私立学校)
6,000 円 (国・公立学校)
- ・平成 21 年度から、一人 月額 14,000 円 (私立学校) 年 3 回に分けて支給
- ・平成 22 年度から、一人 月額 4,000 円 (国公立とも)
- 新入学の 1 年生に対し入学準備金 20,000 円

年度	私立学校在学者		国公立学校在学者		合 計	
	支給月額(円)	人	支給月額(円)	人	支給額(円)	人
17	10,000	125	5,000	149	22,640,000	274
18	13,000	124	6,000	200	32,345,000	324
19	13,000	114	6,000	222	32,180,000	336
20	13,000	121	6,000	219	33,063,000	340
21	14,000	136	6,000	157	32,338,000	293
22	4,000	117	4,000	145	14,262,000	262
23	4,000	107	4,000	152	13,890,000	259
24	4,000	108	4,000	148	13,900,000	256
25	4,000	105	4,000	148	13,792,000	253
26	4,000	96	4,000	146	13,124,000	242
27	4,000	80	4,000	128	11,072,000	208
28	4,000	74	4,000	123	10,716,000	197
29	4,000	89	4,000	117	10,784,000	206

- ・平成 29 年度から、新たに高校に入学する学生に対し入学支度金を支給
(上記制度からの変更)

第 1 子 130,000 円
第 2 子以降 140,000 円

年度	第1子		第2子以降		合 計	
	支給額(円)	人	支給額(円)	人	支給額(円)	人
29	130,000	82	140,000	61	19,200,000	143

9. 就学援助制度

学校教育法第19条により、経済的な理由で就学困難な児童・生徒の保護者に対し義務教育を円滑に受けることができるよう、必要な援助を行うものである。

(対象者)

児童または生徒の保護者が、生活保護法第6条第2項に規定する要保護者に準ずる程度に困窮していると認められる者に対して援助を行うものである。

(援助の内容)

(1) 小中学校在籍児童生徒の保護者

- ・ 新入学学用品費：新1年入学時（翌年度以降は入学準備金に変更）、規定額
- ・ 中学校入学準備金（新入学学用品費からの変更）：中学校入学前、規定額
- ・ 学用品費、通学用品費、校外活動費：毎年度、規定額
- ・ 学校給食費：実費
- ・ 野外活動費：実費
- ・ 体育実技用具費（柔道着）：実費
- ・ 日本スポーツ振興センター掛金：実費
- ・ 修学旅行費：必要経費
- ・ 医療費：学校病（う歯、慢性副鼻腔炎、中耳炎等）として治療勧告を受けた場合の自己負担額

(2) 小学校就学予定者の保護者

- ・ 小学校入学準備金（新入学学用品費からの変更）：小学校入学前、規定額

区 分		学用品費	新入学学用品費 入学準備金	修学旅行費	学校給食費
		通学用品費			
		校外活動費			
小学校	1年	12,990	40,600	20,892	41,541
	その他	15,220	----		
中学校	1年	24,590	47,400	52,760	2,487
	その他	26,820	----		

◎ 山地部児童・生徒通学費補助制度

通学距離及び安全面から、バス通学することについて当該校の校長が許可した児童・生徒のうち、通学距離が片道おおむね1.5キロメートル以上の児童等の保護者に、通学費を補助するものである。

- ・ 平成5年度から実施
- ・ 補助金の額 定期券実費額の3分の1
- ・ 年3回交付 各学期末の翌月

(平成29年度実績)

区 分	小 学 校	中 学 校	合 計
人 数	41	3	44

Ⅲ. 社会教育

1. 社会教育委員

氏 名	所 属
今西 幸蔵	学 識 経 験 者
中島 麻実	P T A 協 議 会
樋口 禎久	こ ども 会 育 成 連 絡 協 議 会
高尾 末男	体 育 協 会
小山 泰明	公 民 館 長 連 絡 協 議 会
大浦 晴子	家 庭 教 育 代 表
三川 俊樹	学 識 経 験 者
三木 昭	人 権 啓 発 推 進 協 議 会
高穂 雅貴	公 立 小 学 校 長 会

2. 平成 29 年度 社会教育についての努力目標

高度情報化、国際化、少子高齢化などの社会の急激な変化は、人々の生き方や価値観にも大きな変化を与え、物質的な豊かさをもたらす一方で、人と人とのつながりの希薄化を浮き彫りにするなど様々な課題を生んでいる。そのような中で、市民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送るとともに、多様な地域課題の解決に向けて主体的に活動して、自律的に社会に参画し、新たなコミュニティを形成することが求められている。

このような状況から、教育委員会としては、個人の要望や社会の要請をふまえたうえで、住民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援する環境の醸成に努め、社会教育の推進を図らなければならない。それによって、あらゆる機会に、あらゆる場所で学習の機会を得ることができ、その成果を適切に活かすことのできる生涯学習社会の構築へとつながるのである。

具体的には、様々な機会や場所を利用して生活に応じた文化的教養を高められるような環境の醸成や、多様な需要をふまえた適切な学習機会の提供及び奨励、そして、学校、家庭及び地域住民その他の関係者相互の連携及び協力の促進に努めることが必要であり、下記のとおりのお取り組みを行う。

まず、成人教育については、家庭教育、人権教育、指導者研修などの各種講座を幅広い年齢層を対象に開催し、参加者に家庭教育や人権教育に対する認識を深められるよう取り組む。

特に人権教育については、人権文化の創造のため、市民のすべてに豊かな人権感覚を育むことができるよう、「茨木市人権教育基本方針」・「茨木市人権教育推進プラン」の趣旨を踏まえながら取り組む。

公民館については、地域活動の拠点施設として広く利用を促進し、コミュニティの醸成を図り、地域の自主的な運営への機運を高めるとともに、地域課題や現代的課題等の解決

に必要な機会の提供を行うなど、更なる公民館活動の充実を図る。

文化財の保存と活用については、本市の歴史的特性等を踏まえ、多様な文化財の保存・活用施策を推進する。

青少年教育については、青少年センター・青少年野外活動センターを活用し、「いま伸びよう 茨木の未来をひらく青少年」の標語に基づいた青少年健全育成運動を全市域において展開することによって、青少年に「生きる力」・「豊かな人間性」などの育成を図る。

図書館については、「本が好きなまち・茨木」をめざし、あらゆる年齢層の市民が自由に知識を習得する社会教育施設としての役割を果たすため、「市民の暮らしに役立ち、誰もが気軽に利用できる親しみやすい魅力ある図書館」を目標に、図書館サービス及び資料の整備充実を図る。

また、文化・生涯学習及びスポーツについては、社会教育と関連する重要な項目であるという認識のもと、引き続き市長部局の担当課とも十分に連携して取組みを行う。

文化施策については、その方向性を示した「文化振興ビジョン」に基づき、推進体制を整え、市民の各種文化活動を支援し、歴史・伝統文化資源の保存・継承を行う。

生涯学習については、生涯学習センターを核とし、市内大学・企業との連携講座を実施するなど各種講座の充実に努めるとともに、市内における生涯学習の現状把握を行う。

また、生涯学習センターでは、市や関係団体、国や府の機関、市内大学・病院等で行われている市民対象の講座やイベント等の生涯学習情報を集約し、4か月毎に情報誌を発行することにより、より市民の生涯学習への参加・参画を促進に努める。

また、スポーツについては、「茨木市スポーツ推進計画」に基づき、すべての市民がそれぞれの興味、体力、技能、目的等に応じて、生涯にわたってスポーツに親しめるよう、市民の生涯スポーツを推進する。

3. 社会教育事業

(1) 社会教育振興課年間事業一覧

月	社会教育振興課関係行事
4	第19回企画展「掘りたてホヤホヤ発掘速報展いばらき 2016-part2」(26日～6月26日)
5	家庭教育学級開設(22学級委託)(5月1日、6月1日)
	家庭教育学級指導者研修会(17日、31日)
	沢良宜識字・日本語教室開講(～2月)
	豊川識字・日本語教室開講(～2月)
	総持寺識字・日本語教室開講(～3月)
	文化財資料館古文書教室講座(全6回)(25日～1月11日)
	文化財資料館運営審議会(16日)
	日本語読み書き学級開講(～3月)
6	親まなびおでかけ講座(8日～2月26日)
7	民謡踊り講習会(7日)

月	社会教育振興課関係行事
	文化財資料館郷土史教室(全8回)(15日～2月17日)
	第1回社会教育委員の会議(24日)
8	教員初任者研修(3日)
	博物館実習(5日～10日)
	文化財資料館夏休み体験学習講座(3日～4日)
9	家庭教育セミナー(22日、29日)
	親学習支援者フォローアップ研修(26日、3月13日)
	中央公民館運営審議会(27日)
	文化財資料館第34回テーマ展「銅鐸をつくった人々-東奈良遺跡の工人集団-」(30日～11月27日)
10	中央公民館運営審議会(20日)
	国史跡郡山宿本陣秋の特別公開(28日～11月5日)
	社会教育関係団体等リーダー研修会(10日・14日)
	保護者のための講座(28日・12月1日)
11	社会教育関係団体等リーダー研修会(13日、12月7日)
	第37回郷土民俗資料展「私が選んだ茨木の歴史遺産」(24日～26日)
1	第70回成人祭(8日)
	文化財資料館「ちょっと昔のいばらき」展(10日～3月19日)
2	PTA大会(3日)
	保護者のための講座(15日、22日)
	青年による人権啓発事業講演会(10日)
3	キリシタン遺物史料館第9回企画展「MARIA-隠された二枚の聖母子像」(23日～5月7日)
	国史跡郡山宿本陣春の特別公開(3日～11日)
	文化財資料館コーナー展「掘りたてホヤホヤ発掘速報展いばらき2017」(28日～6月25日)

(2) 成人教育事業

学習の成果を地域社会の連帯や自己の向上に役立てていただけるよう、家庭教育セミナー、保護者のための講座、社会教育関係団体等リーダー研修会、民謡踊り講習会等を開催するとともに、家庭教育学級を開設している。

① 社会教育関係団体等リーダー研修会

社会教育関係団体等のリーダーを対象として、団体の活動推進のため開催し、主に人権問題に関する研修会を開催し、人権啓発にも努めている。

② 家庭教育学級

児童をもつ保護者が、家庭教育の重要性を認識し、家庭教育において子どもの育成をはかるための必要な知識と技能を高めるため、また家庭生活の向上のために学習活動を展開している。

③ 親まなびおでかけ講座

すべての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域人材を活用した、対話や交流を通して親のあり方を学ぶ「親まなびおでかけ講座」の充実に努め、家庭や地域の教育力の向上を図っている。

(3) 文化財

「茨木市文化財保護条例」をもとに、文化財についての調査・保護をより一層はかるとともに、すべての市民が文化財に親しみ、その意義を理解し、郷土の誇りとして愛着が持てるように啓発に努めている。

文化財資料館では、発掘調査で発見された土器などの遺物をはじめ、古文書や民俗資料を中心に、解説パネルなどもまじえて、郷土茨木の歴史を俯瞰する常設展示室を設けている。また、毎年開催しているテーマ展をはじめ、郷土茨木にまつわるテーマの各種企画展も実施している。このほかにも、市民を対象とした郷土史教室や古文書教室、講演会などの開催、また、小学校の団体見学の受け入れや子どもたちのための体験学習講座のほか生涯学習出前講座において職員を派遣するなど市内に残された文化財の保存と活用に努め、市民の歴史に対する意識の高揚に努めている。(平成 29 年度入館者数 13,361 人)

また、貴重なキリシタン遺物の保存と公開を目的とした千提寺の「キリシタン遺物史料館」にも、市内外からの見学者が数多く来館している。(平成 29 年度入館者数 6,927 人)

一方、東奈良遺跡をはじめとする埋蔵文化財の発掘調査を行い、そこから出土した土器や石器などの遺物の整理作業も進めるとともに、その保存と活用を図るため、遺跡情報管理システムを構築、活用している。

国史跡の郡山宿本陣（椿の本陣）では、年間を通しての一般公開のほか、年 2 回の特別公開を実施している。(平成 29 年度入場者数 2,525 人)

① 茨木市指定文化財

「茨木市文化財保護条例」に基づき、現在、茨木市指定文化財として有形文化財 36 件、史跡 2 件の計 38 件を指定している。

有形文化財 (36 件)

平成 30 年 3 月 31 日現在

種別	名称	員数	所在地	所有者	指定年月日
考古資料	① ひらえんはんにくぼりしじゅうきょう 平縁半肉刻四獣鏡	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H9.9.1
	② しゃえんはんにくぼりいっせんごじゅうたいきょう 斜縁半肉刻一仙五獣帯鏡	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H9.9.1
	③ 土偶	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H12.5.1
	④ 人面付土器	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H12.5.1
	⑤ 壺(弥生前期土器)	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H12.5.1

	⑥	壺(弥生前期土器)	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H12.5.1
	⑦	とうしんそ 塔心礎	1	蔵垣内三丁目	万福寺	H13.6.1
	⑧	小銅鐸 <small>つけたり</small> 附 <small>ぜつ</small> 舌	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	茨木市	H17.5.1
彫刻	①	木造 毘沙門天立像	1	安威三丁目	大念寺	H10.4.1
	②	天正二年銘磨崖仏 <small>まがいぶつ</small>	1	大字上音羽	個人	H22.6.1
絵画	①	しほんちやくしよく 紙本 著色 総持寺縁起絵巻 きたむきうんちくそえがき 附 北向雲竹添書	2	中総持寺町	常称寺	H11.5.1
	②	紙本著色 総持寺縁起絵巻	1	総持寺一丁目	総持寺	H11.5.1
	③	聖母子画像 附 厨子・書簡断簡	3	大字千提寺	個人	H11.5.1
建造物	①	大岩八幡神社 五輪塔	1	大字大岩	大岩 八幡神社	H10.4.1
	②	総持寺(本堂・薬師金堂・仁王門・如来荒神堂・宝蔵・鎮守社・東門・庫裏・鐘楼)付 棟札・宮殿形厨子	9	総持寺一丁目	総持寺	H28.5.26
書跡	①	観音縁起	1	総持寺一丁目	総持寺	H11.5.1
古文書	①	池上家文書	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	個人	H10.4.1
	②	織田信長朱印状	1	大字忍頂寺	忍頂寺	H11.5.1
	③	椿の本陣文書	1	宿川原町	個人	H19.10.1
歴史資料	①	あけずの櫃内 <small>ひつ</small> キリシタン遺物一式	15	大字千提寺 262 番地 (茨木市立キリシタン遺物史料館)	個人	H11.5.1
	②	総持寺瓦窯跡 <small>がよう</small>	2	総持寺一丁目	総持寺	H22.6.1

工 芸 品	①	慶長十五年 ^{めい} 銘 キリシタン墓碑	1	大字下音羽	高雲寺	H10.4.1
	②	慶長十八年銘 キリシタン墓碑	1	大字下音羽	高雲寺	H10.4.1
	③	慶長年銘キリシタン墓碑	1	大字下音羽	個人	H10.4.1
	④	慶長八年銘 キリシタン墓碑	1	大字千提寺	個人	H10.4.1
	⑤	^{えんとう} 円頭キリシタン墓碑	1	大字千提寺	個人	H10.4.1
	⑥	慶長六年銘 キリシタン墓碑	1	大字千提寺	個人	H10.4.1
	⑦	ジシピリナ(苦業の鞭)	1	大字千提寺	個人	H11.5.1
	⑧	真鍮製キリスト ^{たっけい} 磔刑十字架	1	大字千提寺	個人	H11.5.1
	⑨	布製メダル	1	大字千提寺	個人	H11.5.1
	⑩	ロレートの聖母浮彫像 及び 木製櫃	2	大字千提寺	個人	H11.5.1
	⑪	教皇クレメンズ8世像 メダル	1	大字千提寺	個人	H11.5.1
	⑫	和時計	1	宿川原町	個人	H11.5.1
	⑬	火縄式銃砲(大狭間筒) ^{はざま}	9	宿川原町	個人	H11.5.1
	⑭	天正九年銘十三仏板碑 ^{じゅうさんぶついたび}	1	大字桑原	地福寺	H12.5.1
	⑮	天正八年銘六地藏板碑	1	大字桑原	地福寺	H12.5.1

史跡・名勝・天然記念物 (2件)

種別	名称	員数	所在地	所有者	指定年月日
史 跡	① 安威1号墳	1	山手台一丁目	茨木市	H10.4.1
	② 安威0号墳	1	大字安威	茨木市	H10.4.1

② 国・府指定（登録）文化財

ア) 文化財保護法による指定文化財

平成 30 年 3 月 31 日現在 計 34 件

種 別	名 称	員数	所 在 地	所有者	指定年月日
特別天然 記念物	オオサンショウウオ	-	-	-	S27.3.29
史 跡	郡山宿本陣	1	宿川原町	土地(国) 建物(個人)	S23.12.18
	阿武山古墳	1	大字安威	茨木市安威生 産森林組合他	S58.8.30
国 宝 (工芸品)	太刀 銘 熊野三所権 現長光	1	市内	法人	S27.11.22
	短刀 無銘 正宗 (名物庖丁正宗)	1	市内	法人	S27.11.22
重要 文化財 (工芸品)	石燈籠	1	春日五丁目	春日神社	S38.7.1
	太刀 銘 守家	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 備州長船住 長義	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 順慶	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 備前国長船住兼光	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 貞繼	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 秀近	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 真守	1	市内	法人	S28.11.14
	太刀 銘 助宗	1	市内	法人	S25.8.29
	太刀 銘 守利	1	市内	法人	S35.6.9
	太刀 銘 備州長船住景光	1	市内	法人	S25.8.29
	短刀 銘 来國光	1	市内	法人	S28.3.31
	短刀 銘 則重	1	市内	法人	S25.8.29

	短刀 銘 國俊 (名物愛染國俊)	1	市内	法人	S25.8.29
	短刀 銘 左筑州住 (名物小夜左文字)	1	市内	法人	S27.7.19
	短刀 銘 左 筑州住	1	市内	法人	S25.8.29
	刀 無銘 伝秋廣	1	市内	法人	S36.2.17
	刀 金象嵌銘 則重磨上之本阿	1	市内	法人	S36.2.17
	刀 折返銘 備州長船住元重	1	市内	法人	S27.3.29
	刀 無銘 光忠	1	市内	法人	S27.3.29
	刀 無銘 伝貞宗	1	市内	法人	S27.3.29
	刀 折返銘 口行平作	1	市内	法人	S32.2.29
	刀 銘 國廣	1	市内	法人	S27.7.19
	刀 無銘 吉岡一文字	1	市内	法人	S35.6.9
	刀 無銘 伝行光	1	市内	法人	S32.2.19
	蕨手刀子	1	市内	法人	S51.6.5
	摂津東奈良遺跡出土鎔范 <small>ようはん</small> 関係遺物				
重要 文化財 (考古資料)	どうたくようはんざんけつとも 銅鐸鎔范残欠共	35	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	国	S58.6.1
	どうか 銅戈鎔范残欠共	3			
	まがたま 勾玉鎔范残欠共	4			
	附 羽口残欠共	一括			
重要 文化財 (彫刻)	木造如意輪観音坐像	1	大字大門寺	大門寺	S62.6.6
	木造四天王立像	4			

イ) 文化財保護法による登録文化財

平成 30 年 3 月 31 日現在 計 3 件

名 称	所 在 地	所有者	登録年月日
免山篤家住宅	大字佐保	個人	H12.12.4
川本家住宅	上泉町	個人	H26.4.25
真宗大谷派 茨木別院	別院町	茨木別院	H28.11.29

ウ) 大阪府文化財保護条例による指定文化財

平成 30 年 3 月 31 日現在 計 12 件

種 別	名 称	員数	所 在 地	所有者	指定年月日
史 跡	海北塚古墳	1	西福井一丁目	個人	S45.12.7
有形文化財 (工芸品)	厨子入象牙彫 キリスト磔刑像	1	大字下音羽	個人	S47.3.31
有形文化財 (考古資料)	佐保の ^{せきそう} 石槽	2	大字佐保字馬場谷 大字佐保字広田	阪急電鉄 株式会社	S49.3.29
天然記念物	乾邸のいちよう	1	安威二丁目	個人	S50.3.31
有形文化財 (建造物)	忍頂寺石造五輪塔	1	大字忍頂寺	忍頂寺	S53.8.4
有形文化財 (建造物)	地福寺 石造五重塔	1	大字桑原	地福寺	S56.6.1
有形文化財 (彫刻)	蓮花寺 木造地藏菩薩立像	1	天王二丁目	蓮花寺	S56.6.1
有形文化財 (彫刻)	蓮花寺 木造十一面観音立像	1	天王二丁目	蓮花寺	S56.6.1
史 跡	耳原古墳	1	耳原三丁目	帝人 株式会社	H6.12.12
有形文化財 (考古資料)	銭原の石槽	1	大字銭原	個人	H6.12.12
史 跡	紫金山古墳	1	室山一丁目	大阪府	H14.1.29
有形文化財 (絵 画)	紙本著色 マリア十五玄義図	1	東奈良三丁目 12 番 18 号 (茨木市立文化財資料館)	個人	H18.1.20

(4) 公民館

公民館では、社会教育活動の拠点として、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的に活動を推進している。

特に、社会の要請に対応した取り組みである現代的課題・地域課題の解決に向けて、地域と連携しながら、講座等の活性化を図り、その解決に必要な学習機会の提供に努めている。

また、公民館施設については、利用者が安全で快適に利用ができるよう適正な維持管理に努めるとともに、茨木市公共施設等マネジメント基本方針における長寿命化の推進に向けた整備に取り組んでいる。

さらに、地域が抱える課題の対応など「地域活動の拠点」としての役割が公民館に求められており、施設の管理について、公民館よりコミュニティセンターの方がよりその役割を果たすことができると考え、地域の理解を得ながら公民館のコミュニティセンター化を進めている。

① 中央公民館

市民の主体的な学習活動の促進を図り、市民意識の高揚と社会教育の振興に努めており、事業としては、社会教育の視点に立った日本語読み書き学級を行っている。

また、各小学校区公民館において様々な事業を進めていく中で、関係機関との連携、連絡、調整等の役割を担っている。

② 学校区公民館

小学校区公民館設置数は 32 館（うち、施設のある公民館は 17 館）で、それぞれの住民の多種多様な要望を踏まえ、地域の実態に対応した事業を企画立案し、公民館主催の事業として、講座、講習会、講演会、生活教育講座を実施するとともに、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みとして、子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせや地域の歴史、消費者教育等の取り組みなど各公民館で実施及び検討を進めている。

また、公民館区内の地域団体主催の事業である文化展（祭）、ふるさとまつり、地域レクリエーション事業、館報発行等の諸事業の支援を行い、学習活動の推進と住民相互の交流に努めている。

平成29年度 公民館利用状況

月	数	公 民 館																		計
		茨木	春日丘	中条	玉櫛	安威	玉島	福井	清溪	見山	石河	太田	太田分館	天王	郡山	山手台	耳原	白川	西	
年間 合計	件	2,120	1,564	2,206	2,003	945	1,419	760	140	33	98	2,400	1,185	1,923	723	1,532	1,218	1,793	952	23,014
	人	29,760	20,562	31,226	27,862	12,702	19,769	10,144	1,677	424	1,235	34,987	15,169	22,950	11,674	21,943	12,422	27,084	13,464	315,054
月	件	176.7	130.3	183.8	166.9	78.8	118.3	63.3	11.7	2.8	8.2	200.0	98.8	160.3	60.3	127.7	101.5	149.4	79.3	1,918
平均	人	2,480.0	1,713.5	2,602.2	2,321.8	1,058.5	1,647.4	845.3	139.8	35.3	102.9	2,915.6	1,264.1	1,912.5	972.8	1,828.6	1,035.2	2,257.0	1,122.0	26,255

4. 青少年教育

「いま伸びよう 茨木の未来をひらく青少年」の標語に基づいた青少年育成を全市域で展開するとともに、青少年野外活動センター、上中条青少年センター等において、生涯学習する力を身につけ、21世紀をたくましく生きる力と豊かな人権感覚や、ボランティア精神にみちた青少年を育成している。

(1) 青少年課年間事業一覧(平成29年度)

月	事業名
4	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会活動説明会 ・こども会キックベースボール実技講習会 ・青少年野外活動センター日帰り利用開始(3月～)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年野外活動センター宿泊利用開始 ・キャンプカウンセラー養成研修会
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいコンサート ・ミキシング講習会
7	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会親善スポーツ中央大会 ・茨木神社夏まつり巡回街頭指導 ・茨木フェスティバル巡回街頭指導 ・「深夜はいかい」等防止巡回街頭指導 ・小豆島町とのこども交流事業「しょうどしまオリーブキャンプ」 ・青少年問題協議会専門部会
8	<ul style="list-style-type: none"> ・小豆島町とのこども交流事業「いばらきフレンドリーキャンプ」 ・弁天宗花火大会巡回街頭指導 ・「深夜はいかい」等防止巡回街頭指導 ・ミキシング講習会 ・ふれあい観劇会 ・青少年問題協議会
10	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会育成者・指導者研修会(百人一首カルタ) ・青少年問題協議会専門部会
11	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者育成強調月間 ・「中学生の主張」発表大会
12	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会冬の行事お手伝い援助活動 ・青少年問題協議会専門部会
1	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会親善百人一首カルタ競技大会 ・青少年問題協議会専門部会 ・青少年センターフェスタ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成演奏会 ・青少年問題協議会 ・ふれあいコンサート

3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプカウンセラー春期研修会 ・青少年健全育成研修会 ・茨木市青少年健全育成運動重点目標リーフレット発行
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもセミナー(年間37回実施) ・中学校区ごとの「教育問題懇談会」 ・中学校区青少年健全育成大会

(2) 青少年野外活動センターの事業(平成29年度)

	名 称	目 的	参加延数
主 催 キ ャ ン プ	ジュニアリーダー研修会	単位子ども会において活動している小学6年生が、3泊4日のキャンプを含め年3回の研修を行い、子ども会のリーダーとしての資質を身につける。	621人
	中学生リーダーキャンプ	前年度実施した「ジュニアリーダー研修会」の修了生、及び小豆島町教育委員会から推薦された中学1年生が5泊6日のキャンプを通じて中学生リーダーとしての資質を身につける。	210人
	高校生リーダーキャンプ	「中学生リーダーキャンプ」を修了した高校生が、3泊4日のキャンプスタッフを経験することにより、ボランティア活動の魅力を知る。	42人
	トムソーヤキャンプ	市内在住の小学4年生が、2泊3日のキャンプを含めて年3回のつどいを通じ、仲間づくりや自然とのふれあい方を学び、豊かな心を身につける。	305人
	いばらきフレンドリーキャンプ (小豆島町との子ども交流事業)	国内姉妹都市である小豆島町の4小学校の6年生と、本市の単位子ども会の子どものキャンプ生活を通して新しい友情の輪を広げる。	220人
	なかよしキャンプ (担当課:学校教育推進課)	2泊3日のキャンプを通じて、市立中学校の支援学級在籍生徒の経験を豊かにし、お互いの心のふれあいの機会とするとともに、協力して楽しい共同生活を築く実践的な態度を育てる。	※台風により中止
	やってみよう! キャンプ (担当課:教育センター)	市立小・中学校に在籍する学校生活になじみにくい児童・生徒が、豊かな自然の中で1泊2日のキャンプ生活・集団生活を体験することにより、自立する力を身につけ、学校に適應できるきっかけとする。	8人

親子体験ワクワクキャンプ	小学校低学年の児童が、自然の中でのキャンプ生活を行うことで、自然や野外活動に対する興味を高めると共に子どもの体験活動に対する保護者の理解を深める。	60人
ホップステップキャンプ	小学6年生、中学1年生の子ども達が、初めて出会う人達とのグループ活動や新たな体験活動の機会を通じて、「社会を生き抜く力」を育てる。	126人
社会人ヘルパー	青少年野外活動センターのリーダーキャンプやキャンプカウンセラー経験のある社会人等が、キャンプスタッフとして活動する。	82人
キャンプフェスティバル	市内在住の家族又はグループを対象に、青少年野外活動センターを開放して、気軽に自然と触れあう機会とする。	1,293人
高校生ボランティアキャンプ	市内在住又は市内の高校に通学する高校生を対象に、キャンプ場整備やテントの設営・撤収作業等を通してボランティアの精神を養う。	47人
キャンプカウンセラー活動紹介キャンプ	キャンプカウンセラーの家族を対象に、施設見学やプログラム体験をしてもらい、キャンプカウンセラー活動への理解を深めてもらう。	84人
こども会キャンプ	こども会に所属している小学3年生以上が、こども会単位で参加できる1泊2日のキャンプで、子どもが主人公となるキャンプをねらいとする。	1,507人
中学校キャンプ	中学校学習指導要領「特別活動」の目標を達成するため、学校行事の一つとして位置づけ、希望する市立中学校において1泊2日及び日帰りの日程で実施。	933人
小学校自然宿泊体験学習 (担当課:学校教育推進課)	市立小学校の5年生が1泊2日で自然の中での集団生活を行い、自然や文化に親しみながら人間関係や公衆道徳を学ぶ。	2,955人
その他のキャンプ	各種青少年団体等による宿泊及び日帰りキャンプ。	2,723人
合 計		11,216人

(3) こども会活動

一定の地域に居住する子どもたちが、遊びを中心とする異年齢の集団活動を通じて、創造性・協調性・実践力を養い、自ら学び自ら考えることのできる「生きる力」を身につけることをねらいとして、地域で子どもを育てるために自主的に組織されている。本市ではこども会親善スポーツ中央大会や百人一首カルタ競技会等を実施することで活動を支援している。

市内の単位こども会結成の推移

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
こども会数	242	240	229	224	219
会員数	8,268人	7,950人	7,483人	7,010人	6,647
加入率(%)	49.8%	47.9%	45.3%	42.8%	40.5%

※加入率は、各年度6月末現在の児童・生徒・園児在籍調査表に基づく。

(4) 放課後子ども教室

放課後などに子どもたちの安心で安全な居場所を設ける事業を推進することにより、子どもの体験・交流活動の活性化を図り、地域社会全体で子どもの豊かな成長を育むコミュニティづくりを推進することを目的としている。茨木市では、地域の方々に組織していただいている実行委員会に委託し、市内全32小学校区で実施している。

放課後子ども教室 登録・参加状況(実施32校区)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
登録人数	10,337人	10,466人	10,599人	10,730人	10,814人
延べ実施日数	2,495日	2,599日	2,672日	2,776日	2,811日
延べ参加者数	250,928人	266,185人	283,810人	309,261人	333,013人

(5) 上中条青少年センター

上中条青少年センターは青少年による自主的・組織的な活動を促進するために設置しており、青少年センターフェスタや子どもセミナーなど、青少年の体験・交流事業を実施している。

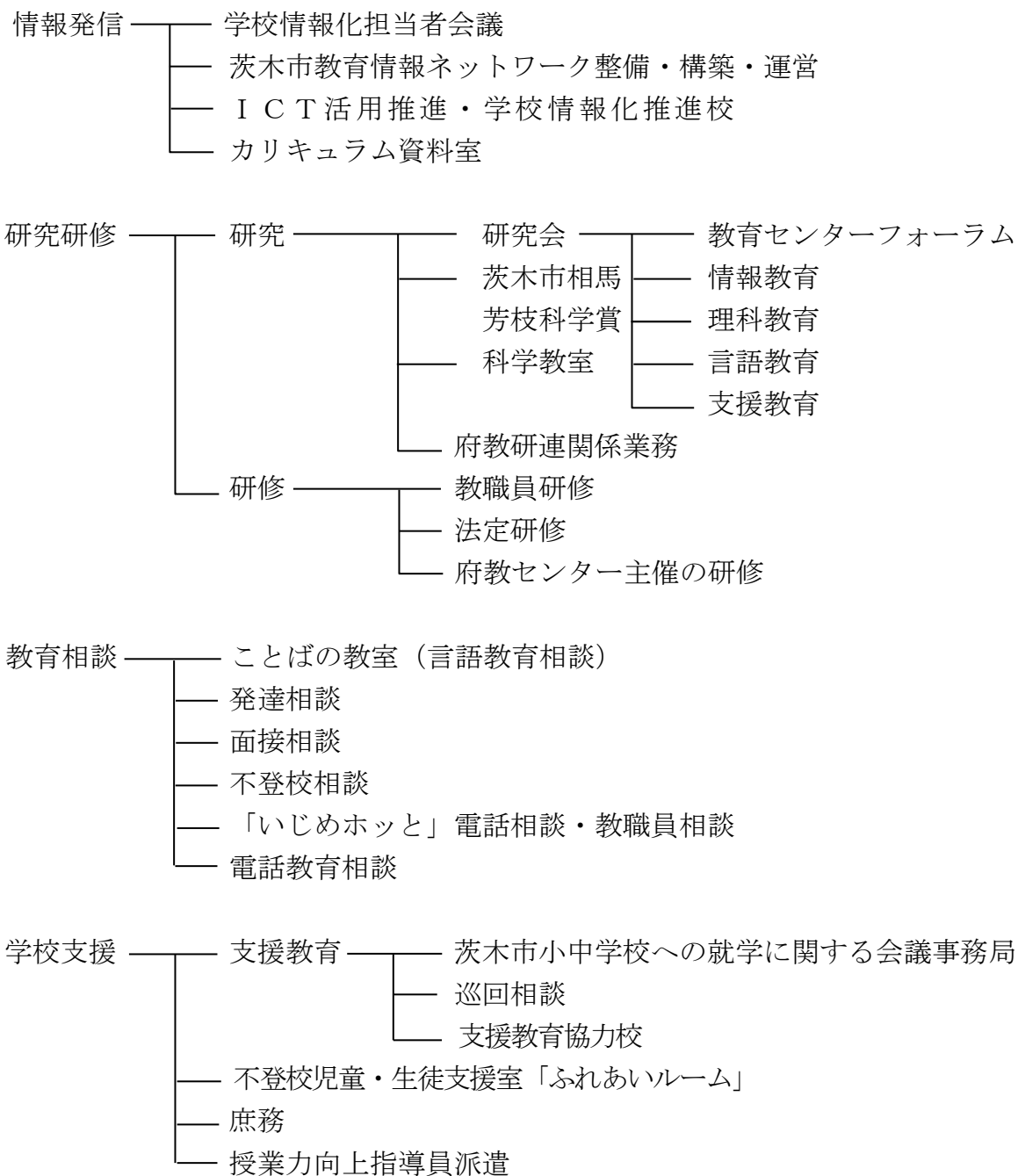
上中条青少年センターの利用状況

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
利用人数	52,988人	49,259人	47,910人	50,845人	51,407人

IV. その他の教育機関

1. 茨木市教育センター

(1) 平成 29 年度 おもな業務



(2) 学校の情報化

① 平成 29 年度の ICT 環境整備

校務用端末の更新・校務システムの更新

② ICT 機器運用支援事業 および 学校情報化推進校事業

・ ICT 機器運用支援事業

本市の学校に配備している ICT 機器と教育情報ネットワークのセキュリティ確

保と運用を支援するサポートデスクを設置した。

- 平成 29 年度 学校情報化推進校事業
小中学校 4 校を「学校情報化推進校」として、年間を通じて ICT 活用の研究・普及に積極的に取り組み、その効果（研究成果）を市内に発信した。

茨木小学校、彩都西小学校、養精中学校、彩都西中学校

③ 学校情報化担当者会（各校 1 名で構成）

- 各校の教育情報化に役立てるための定例会を開催し、情報交換と研修を行った。
- 校務の情報化の工夫、各校の取り組み状況の交流、情報セキュリティ、情報教育、e-learning 活用による学力向上への取り組みについて研究検討を行った。

④ e-learning を用いた学習

- 放課後学習会の支援者の派遣

「いばらきっ子スタディ」を活用した学習会を行う学校に有償ボランティアを派遣した。

(3) 教職員研修

< 校長研修 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
人権教育校長研修	差別事象の対応 ～大阪府の現状と課題から～	府教育委員会 指導主事	4月27日
情報教育校長研修会	「学校情報化の未来像をもったリーダーシップ」について	岐阜女子大学 教授 久世 均 氏	5月12日
教育課題校長研修1	チーム学校としてのSSWの 役割について	日本福祉大学 准教授 野尻 紀恵 氏	6月26日
校園長一日研修会	教職員の意欲を引き出す学校づくり ～業務改善を通して～	芦屋市立精道小学校 校長 後藤 武昭 氏	7月25日
支援教育校長研修	学校としてインクルーシブ教育の推進や合理的配慮とユニバーサルデザインについて	石塚 謙二	9月14日
教育課題校長研修2	支援教育について	藍野大学 講師 尾藤 祥子 氏	11月28日
教育課題校長研修3	新学習指導要領に求められる カリキュラムマネジメントについて	甲南女子大学 教授 村川 雅弘 氏	2月15日

< 教頭研修 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
人権教育教頭研修	セクシャルハラスメント防止について	府教育委員会 指導主事	5月19日
情報教育教頭研修会	これからの教員のICT機器活用授業 づくりと校務の情報化推進について	岐阜女子大学 教授 久世 均 氏	5月12日

教育課題教頭研修1	子どもを支える視点と方法～SSWとの連携・協働でできること～	日本福祉大学 准教授 野尻 紀恵 氏	6月 26 日
教頭一日研修会	子どものよさに依拠する学校	大谷大学 教授 中島 智子 氏	7月 27 日
支援教育教頭研修	学校としてインクルーシブ教育の推進や合理的配慮とユニバーサルデザインについて	石塚 謙二 氏	9月 14 日
教育課題教頭研修2	支援教育について	藍野大学 講師 尾藤 祥子 氏	11月 28 日
教育課題教頭研修3	新学習指導要領に求められるカリキュラムマネジメントについて	市教育委員会 指導主事	2月 15 日

<初任者研修>

研修会名	テーマ	講師	実施日
茨木市初任者研修 開講式	茨木市の教職員として／ICT機器を用いた授業づくり／茨木っ子授業スタンダードについて	市教育委員会 指導主事	5月 15 日
初任者宿泊研修	茨木市の地域教材を探る・自然体験学習・人間関係能力向上	青少年課 市教育研究会社会科部	7月 25 日・ 26 日
初任者人権研修	茨木市の人権教育について	茨木市職員	8月
初任者代表授業	初任者代表による 公開授業・研究協議	市教育委員会 指導主事	2～3学期
社会体験研修	2年目に実施 (他校種体験研修等)		1～2学期
いじめ不登校 シンポジウム	事例検討とワークショップ	市教育委員会指導主事 SC SSW	1月 5 日
新転任人権研修	人権学習と集団づくり	市教育委員会指導 主事	6月 21 日

<ミドルリーダー育成研修>

研修会名	テーマ	講師	実施日
学校づくり研修1	情報モラルを活かした授業づくり	市教育委員会 指導主事	7月 21 日
学校づくり研修2	授業力向上のための ICT 機器活用法	市教育委員会 指導主事	8月 7 日
学校づくり研修3	ICT 機器を活用した、プレゼンテーション力向上につながる授業づくり	市教育委員会 指導主事	8月 8 日

< 事務職員研修 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
新規採用事務職員研修(茨木市開校式)	茨木市 ICT 機器・校務システム等、情報教育理解研修	市教育委員会 指導主事	5月 15日
新規採用事務職員研修(第1回)	学校事務職員実務研修	事務職員 市教育委員会指導主事	6月 10日
小・中学校事務職員研修(キャリアアップ研修)	茨木市の施策について・学校事務職員としてのキャリアアップについて	大阪大学 教授 小野田 正利 氏	9月 8日
新規採用事務職員研修(第2回)	学校事務・学校財務事務	事務職員	8月 23日
新規採用事務職員研修(第3回)	学校事務・学校徴収金	事務職員	10月 25日
学校事務職員ミドルリーダー研修	「ホワイトボードミーティング」を活用した会議の進行、企画提案の方法等	事務職員	10月 24日
新規採用事務職員研修(第4回)	学校財務事務・研修のまとめ	事務職員	2月 5日
学校事務職員キャリアアップ研修	「コーチング」を活用した若手育成の方法等や職場環境の改善	C's G Mission 瀬戸口 千佳 氏	2月 16日

分野・領域別研修

< 支援教育 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
通常学級における支援講座①	発達障害をポジティブに生きる ～当事者として・当事者の母として～	神戸市発達障害 ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏	5月 25日
通常学級における支援講座②	発達障がいについて ～授業づくりの工夫～	高槻支援学校 首席 村山 聡 氏	7月 28日
通常学級における支援講座③	ビジョントレーニングについて ～基礎から実践へ～	茨木支援学校 指導教諭 榎場 政晴 氏	8月 1日
通常学級における支援講座④	教室環境整備と姿勢保持について ～茨木っ子運動を通して～	藍野大学 医療保健学部 作業療法学科 尾藤 祥子氏	8月 21日
通常学級における支援講座⑤	授業づくりについて ～支援のあり方から学習評価まで～	府教育委員会 指導主事	11月 7日
通常学級における支援講座⑥	個別の指導計画の活用について	大阪大谷大学 教授 小田 浩伸 氏	1月 26日
支援教育研修①	就学相談について	市教育委員会 指導主事	5月 18日

支援教育研修②	授業！給食！！子どもたちの障がい理解～巡回相談を通して～	高槻支援学校 首席 村山 聡 氏	6月 9日
支援教育研修③	通級指導教室との連携と実践例	市教育委員会 指導主事	6月 29日
支援教育研修④	支援学級の授業づくりについて	府教育委員会 指導主事	8月 9日
支援教育研修⑤	子どもの行動の理解と支援	摂津支援学校 指導教諭 藤城 光好 氏	10月 30日
支援教育研修⑥	学校全体で取組むポジティブな行動支援	摂津支援学校 指導教諭 藤城 光好 氏	11月 29日
支援教育研修⑦	事例検討から生徒・生活指導について	京都府総合教育センター 後野 文雄 氏	1月 19日
自立活動研修	自立活動の内容と指導の実際	茨木支援学校 指導教諭 榎場 政晴 氏	12月 27日
授業のユニバーサル研修 (初級)1	授業のユニバーサルデザインの基本について～環境整備から授業づくりまで～	市教育委員会 指導主事	2月 12日
授業のユニバーサル研修 (初級)2	授業のユニバーサルデザインの基本について～新年度に向けた授業づくり・学級づくり～	市教育委員会 指導主事	2月 27日

< 児童生徒理解 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
児童生徒理解講座1	信頼ベースの学級 ファシリテーション1	株式会社ひとまち 水田 恵美 氏	8月 3日
児童生徒理解講座2	信頼ベースの学級 ファシリテーション2	株式会社ひとまち 水田 恵美 氏	8月 3日

< 教育相談 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
教育相談実技研修1	「子どもを元気にするかわり方」	常磐会学園大学 教授 佐谷 力 氏	11月 16日
教育相談実技研修2	学童期・思春期の発達課題と 子どもとの関わり方について	茨木市 SCSV 桧谷 真美 氏	10月 19日
教育相談実技研修3	思春期の子どもとの向き合い方	追手門学院大学 教授 三川 俊樹 氏	2月 19日

<課題別>

研修会名	テーマ	講師	実施日
食育研修	子どものおやつと食育について	カルビースナック スクール	10月25日
アレルギー研修	食物アレルギー対応研修	大阪南医療センター小児科 医長 井上 徳浩 氏	2月 1日
プログラミング教育研修	これから求められる プログラミング教育	大阪電気通信大学 教授 兼宗 進 氏	3月 9日
いじめ防止研修	SNSのいじめ・トラブルについて	LINE株式会社	1月31日
保護者理解研修	保護者との関係づくりについて	大阪芸術大学 教授 西林 幸三郎氏	1月18日
キャリア教育研修	仕事への興味・関心を広げる キャリア教育	阪急電鉄社会 貢献担当者	8月 3日
安全・防災教育研修	学校危機管理研修 ～学校における大規模災害対応～	姫路市立高浜小学校 主幹教諭 三村 理加 氏	2月 9日
水難救助研修	水難救助法と子どもの 安全確保について	水難学会 小林 幹	6月19日
救急救命講習	普通救急救命法	茨木市消防本部 職員	5月 16.17.19.23日
学びのシンポジウム全体会	グローイングアッププランについて	大阪大学 教授 志水 宏吉	5月17日
人権教育研修1	同和問題について	府教育委員会 指導主事	5月22日
人権教育研修2	LGBT 理解について	にじいろらいと 代表 柳 淳也 氏	6月15日
人権教育研修3	集団づくりについて	府教育委員会 指導主事	6月30日
人権教育研修4	男女平等教育について	府教育委員会 指導主事	1月29日
人権教育研修5	在日外国人教育について	府教育委員会 指導主事	2月20日

<授業づくり>

研修会名	テーマ	講師	実施日
授業力向上研修 (国語)	主体的・対話的で深い学びを 実現する国語科の授業づくりについて	大阪教育大学 教授 住田 勝 氏	9月14日

授業力向上研修 (英語)1	これからの英語教育の あり方について	大阪樟蔭女子大学 教授 菅 正隆 氏	6月 19日
授業力向上研修 (英語)2	小学校の授業づくり	大阪樟蔭女子大学 教授 菅 正隆 氏	9月 15日
授業力向上研修 (英語)3	中学校の授業づくり	大阪樟蔭女子大学 教授 菅 正隆 氏	11月 13日
LEEP 研修①	教室英語の活用について	太田小学校 教諭 新家 秀雄 氏	5月 25日
LEEP 研修②	絵本の活用について	大池小学校 教諭 吉田 元樹 氏	7月 28日
LEEP 研修③	単語や表現の学習について		7月 28日
LEEP 研修④	他教科等と関連した内容を 取り入れた活動について		8月 1日
LEEP 研修⑤	授業指導案の作成について		8月 1日
LEEP 研修⑥	歌の活用について		8月 17日
LEEP 研修⑦	NET(ALT)との打ち合わせについて		8月 17日
LEEP 研修⑧	アルファベットの音について		8月 18日
道徳教育研修1	ゼロから学べる道徳科授業づくり		立命館大学 准教授 荒木 寿友 氏
道徳教育研修2	「一人も見捨てへん教育」を 推進する道徳の授業づくり	市教育委員会 指導主事	10月 13日
道徳教育研修3	道徳の授業づくりについて	大阪教育大学 教授 金光 靖樹 氏	1月 23日

< 理科教育 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
理科授業づくり研修1	自由研究のあり方について	市教育委員会 指導主事	6月 29日
理科授業づくり研修2	プラネタリウムと連携した天体の授業 づくりについて	茨木市天文観覧室 プラネタリウム職員	7月 21日
理科授業づくり研修3	小学校3年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	8月 1日
理科授業づくり研修4	小学校4年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	8月 1日

理科授業づくり研修5	小学校5年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	8月 7日
理科授業づくり研修6	小学校6年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	8月 7日
理科授業づくり研修7	小学校3年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	12月 25日
理科授業づくり研修8	小学校4年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	12月 25日
理科授業づくり研修9	小学校5年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	12月 27日
理科授業づくり研修 10	小学校6年の理科の授業づくり	市教育委員会 指導主事	12月 27日
理科教育実践研修 小学校1	第1回:理科の授業づくりのいろは	理科教育研究員 市内 CST	6月 7日
理科教育実践研修 中学校1	第1回:理科の授業づくりのいろは	理科教育研究員 市内 CST	6月 21日
理科教育実践研修 小学校2	第2回:安心・安全で深い学びのある 観察・実験	理科教育研究員 市内 CST	7月 31日
理科教育実践研修 中学校2	第2回:安心・安全で深い学びのある 観察・実験	理科教育研究員 市内 CST	7月 31日
理科教育実践研修 小学校3	第3回:魅力あふれる理科の授業づく り	理科教育研究員 市内 CST	8月 3日
理科教育実践研修 中学校3	第3回:魅力あふれる理科の授業づく り	理科教育研究員 市内 CST	8月 3日
理科教育実践研修 小学校4	第4回:理科の授業で使ってみようIC T機器	理科教育研究員 市内 CST	8月 9日
理科教育実践研修 中学校4	第4回:理科の授業で使ってみようIC T機器	理科教育研究員 市内 CST	8月 9日
理科教育実践研修 中学校5	第5回:研究員による公開授業	理科教育研究員 市内 CST	11月 27日
理科教育実践研修 中学校5	第5回:研究員による公開授業	理科教育研究員 市内 CST	1月 18日

< 学校情報化 >

研修会名	テーマ	講師	実施日
新規採用教職員 ICT 機器研修	茨木市の ICT 機器を活用した 授業づくり・情報モラルを教えたい!	市教育委員会 指導主事	5月 15日
タブレット活用 授業づくり研修1(小学校)	タブレット活用授業づくり研修1 (小学校)タブレット体験	市教育委員会 指導主事	5月 17日

タブレット活用 授業づくり研修2(中学校)	タブレット活用授業づくり研修2 (中学校)タブレット体験	市教育委員会 指導主事	5月19日
デジタル教科書活用研修	デジタル教科書を使った、視覚支援を 高める分かりやすい授業づくり	内田洋行 担当者	5月31日
「いばらきっ子スタディ」 e-learning 活用研修1	「いばらきっ子スタディ」を活用した 授業づくり・家庭学習のすすめ	市教育委員会 指導主事	6月7日
情報モラル研修1	「情報モラル」を授業で指導する上で 知っておきたい授業活用事例	市教育委員会 指導主事	6月14日
学校情報化研修1	学校情報化を進めるための実践報告① 校務の情報化実践と活用について	市教育委員会 指導主事	7月31日
タブレット活用 授業づくり研修3	タブレットを活用した授業づくり 【入門編】	市教育委員会 指導主事	8月2日
タブレット活用 授業づくり研修4	タブレット活用授業づくり研修4 【小学校編】	市教育委員会 指導主事	8月7日
タブレット活用 授業づくり研修5	タブレット活用授業づくり研修5 【中学校編】	市教育委員会 指導主事	8月8日
CMS研修	CMSを用いたHPの 運用について	市教育委員会 指導主事	8月21日
タブレット活用 授業づくり研修7	タブレット活用授業づくり研修6 SKYMENU①	市教育委員会 指導主事	10月25日
タブレット活用 授業づくり研修7	タブレット活用授業づくり研修7 SKYMENU②	市教育委員会 指導主事	11月1日
「いばらきっ子スタディ」 e-learning 活用研修2	「いばらきっ子スタディ」を活用した 授業づくり、タブレットのこれから	LINES 株式会社 担 当者	11月30日
タブレット活用 授業づくり研修8	公開授業＋研究協議 (彩都西中学校:美術科)	市教育委員会 指導主事	12月7日
デジタル教科書 活用研修2	デジタル教科書活用研修 小学社会5・6年	日本文教出版株式会社 鴻巣 純一 氏	2月23日
学校情報化担当者会	学校情報化担当者(学校 CIO)	市教育委員会 指導主事	通年

(4) 授業力向上指導員の活動

初任者及び教職経験の少ない教職員を中心に、授業力や課題対応能力を高めるために、経験豊かな授業力向上指導員が学校に出向き、直接指導や支援を行った。あわせて、初任者指導教員等の支援も行うことで、学校の組織的・継続的なOJTの取組みの推進を支援した。

<訪問形態>

ア) 随時訪問

ワンポイントサポート：短時間訪問。年間通して、複数回実施。

イ) 定例訪問

ワンアワーサポート：授業を1コマ参観、その後ふりかえり。

(5～6月・1～3月に実施)

エ) 要請訪問

校長からの要請によって実施 (1年間実施)

オ) 2年目サポート

2年目教員の研究授業・指導案の指導 (1・2学期)

(5) 教育相談

① 来所・電話による教育相談

相談事業名	相談内容	予約・申込み
1. 「いじめ」ホッと電話相談	* 電話による「いじめ」に関する悩み相談	実施日時 月～金曜日 午前9時00分～午後5時 TEL 627-5511 0120-147970
2. 電話教育相談	* 電話による教育に関する悩み相談	実施日時 月～金曜日 午前8時45分～午後5時 TEL 625-7830
3. 面接相談 (予約制)	* 心理面の悩みについての相談 (カウンセリング・プレイセラピー等)	実施日時 月～金曜日 午前8時45分～午後5時 TEL 626-4400
4. ことばの教室 (予約制)	* 幼児を対象に言語に関する相談および指導	
5. 発達相談 (予約制)	* 発達に関する相談指導(最長3年)	
6. 教職員対象の相談	* 電話または面接による相談	実施日時 月～金曜日 午前8時45分～午後5時 TEL 627-5511
7. 不登校相談	* (不登校支援を参照)	

② 特別教育相談一覧 (医師等による相談)

相談種類	実 施 月	
言語教育相談	6, 7, 8, 9月に実施 年間5回	広報いばらきに掲載
面接(心理)相談	6, 7, 3月に実施 年間3回	
発達相談 (LD, ADHD 等)	6～3月で実施 年間 12 回 ※発達(LD, ADHD 等)の相談については、発達相談を受けている人の中から必要に応じて実施します。	

(6) 支援教育・巡回相談

巡回相談員を年間3回を上限に派遣し、校内支援体制づくり、対象となる児童生徒の特性の把握、指導内容、指導方法に関する助言を行った。学校の希望に応じて、支援教育に関する講話を実施した。

① 支援教育研究協力校

水尾小学校、郡山小学校、北中学校、南中学校

巡回相談とは別に、アドバイザーを派遣し、通常学級における支援について学校の取組みを支援した。

(7) 不登校支援

① 不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」

ア) 目標

学校に登校できない状況にある児童・生徒に対して、集団生活への適応を促し、学校生活への復帰を支援するとともに、児童・生徒の社会的自立をめざす。

イ) プログラム

教科学習

月－①社会②数学 火－①数学②国語

木－①国語②英語 金－①英語②社会

※個人で学校のプリントや問題集などを持参する。

総合学習

理科実験・音楽・美術・家庭科（調理実習）
 などの実技を伴う学習や、自然観察や社会見学
 などの体験学習を行う。またコミュニケーション
 能力向上のためのワーク・SSTなども行う。

自習タイム

16時までふれあいルームを開放する。個人で自主的に学習する時間とする。

やってみようデー

月に一度、総合の時間に、個人が主体的に自分のやりたいことを計画し、行動する日とする。

ウ) チャレンジデー（毎週水曜日）

水曜日はチャレンジデーと位置づけ、入級生は登校にチャレンジする日とする。

エ) 所外活動

遠足（6月27日、10月3日、2月6日）

ふれあい運動会（11月9日）

やってみようキャンプ1泊2日（8月22日～23日）

② 不登校に関わる相談

児童・生徒の保護者や学校からの相談について、専門の相談員が関係機関と連携を図りながら改善をめざす。

③ 不登校支援員（ボランティア）の派遣

ア) シャトルスタッフ : 家庭訪問指導による支援活動

イ) ふれあいフレンド : 別室登校の児童・生徒支援活動

ふれあいルーム時間割				
	月	火	木	金
9:30	開室・自習・自主活動タイム			
10:00	朝の会			
10:10	教科学習① 45分			
11:05	教科学習② 45分			
11:50	振り返りタイム			
12:00	昼食・フリータイム			
13:00	総合学習			
14:00	スポーツ			
14:45	そうじ			
14:50	終わりの会・振り返りタイム			
15:00	自習タイム			
16:00	閉室			

(8) 調査研究

① 研究会活動

市内小・中学校の教員が研究員として、教育センターの職員や指導主事とともに、今日的な教育課題について研究を行った。研究の成果については、「教育センターフォーラム」にて報告するとともに、年度末に研究内容を研究紀要として各校に配布した。

② 内容

ア) 情報教育 4名

小学校2校、中学校2校を「学校情報化推進校」として、授業におけるICT機器活用や情報モラル教育の推進及び、公務の情報化についての研究と実践に取り組んだ。

イ) 理科教育 12名

理科教育全般にわたって授業に役立つ実践的な研究を行った。大阪府教育センターで理科の長期研修を受講した5名の研究員が講師を務める研修を行い、その研修を受講した研究員がモデル授業を行い、市内小・中学校へ理科の授業づくりを発信した。

ウ) 外国語教育 8名

新学習指導要領を踏まえて、小学校における外国語活動・外国語科の授業づくりや帯学習、小学校での実践を踏まえた中学校における外国語科の授業づくりや、小学校と中学校の連携等のテーマで、専門家の指導を受けながら研究を行った。

アドバイザー 関西大学 教授 竹内 理 氏

エ) 支援教育 4名

専門家の指導助言を受けながら、通常の学級における支援教育の視点を取り入れた授業づくり「授業のユニバーサルデザイン化」を共通テーマに、校内支援体制のあり方や個別の指導計画・教育支援計画を含めた引継ぎシステムの充実、支援ツールについて研究を行った。

アドバイザー 梅花女子大学 教授 伊丹 昌一 氏
神戸親和女子大学 准教授 森田 安徳 氏

(9) 教育センターフォーラム・研究紀要

① 教育センターフォーラム (平成 30 年 2 月 21 日水曜日)

学校の教職員や教育関係者、市民等を対象とし、教育センターの調査研究の報告を行った。

参加者延べ人数 237 名

② 研究紀要

教育センターでの研究・内容をまとめ、WEB 版として発行した。

(研究紀要 第 203 号)

(10) 相馬芳枝科学賞、科学教室

① 茨木市相馬芳枝科学賞 (表彰式：11 月 11 日土曜日)

茨木市内在住の小中学生を対象とし、自由研究の募集・表彰・展示を行った。

応募数 142 点、来場者数 873 名

② 第 2 土曜科学教室 (4、8、11 月を除く毎月第 2 土曜日)

小学校 3～6 年対象、教育センター科学実験室等で実施した。

参加者延べ人数 341 名

③ 子どもと保護者の科学教室 (7 月 30 日日曜日)

小学校 3～6 年の児童とその保護者を対象とし教育センターセミナー 301 号室で実施した。

参加者数 81 名

2. 図書館

(1) 運営方針

茨木市立図書館は、中央・中条・水尾・庄栄・穂積図書館及び8つの分室・移動図書館が連携し、市民の求める資料や情報を積極的に収集し、提供することを最も重要な役割とする。

この役割を果たすため、図書館資料の整備充実を図り、迅速かつ的確な読書案内や貸出・予約サービスなどを通じて、確実な資料の提供に努める。また、市民からの相談に応える「レファレンスサービス」にも積極的に取り組み、「市民のくらしに役立ち、誰もが気軽に利用できる親しみやすい魅力的な図書館」をめざす。

(2) 平成29年度の重点目標と主な取組

- ① 組織的、系統的な資料の収集を図る。
 - ・ 市民の要望と関心をふまえ、市民の求める資料・情報をできる限り提供することに努める。
 - ・ 郷土・行政資料を適宜収集し保存に努める。

- ② レファレンスサービスの機能充実に努める。
 - ・ 多種多様化する調査研究にも応えることができるよう、分館でも、これまでのインターネットの利用に加え、新聞記事・判例等の検索データベースの活用を図る。
 - ・ 府立図書館など他の図書館や関係機関と連携を図る。

- ③ 子どもの読書活動を推進する。

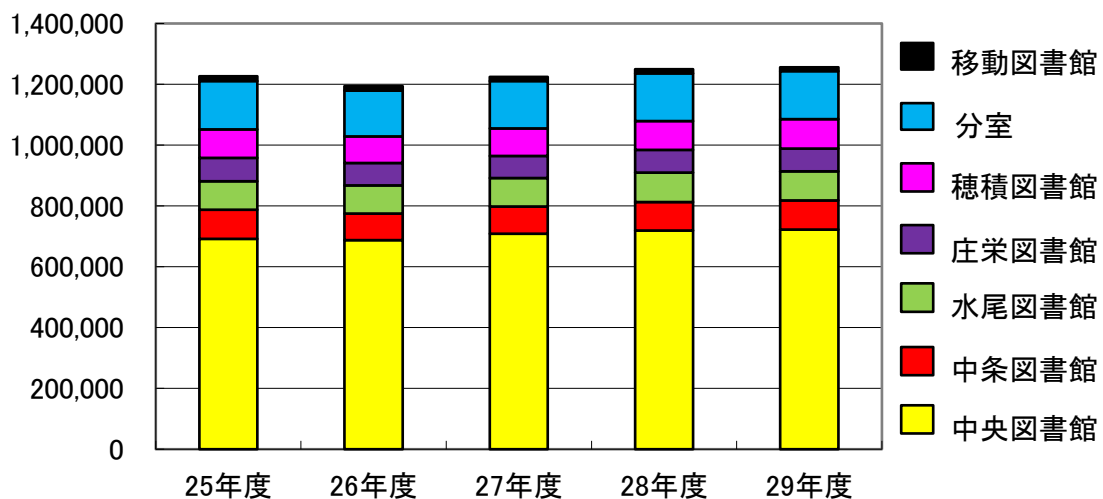
子どもにとって読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであるため、第2次茨木市子ども読書活動推進計画に基づき、さまざまな取組を行う。

 - ・ 学校や関係課等と連携し、読書環境の整備、読書機会の提供を行う。
 - ・ 子ども向けの行事を行い、子どもの図書館利用促進を図る。
 - ・ 子どもの読書推進に関する講座を開催し、市民の理解を深める。
 - ・ ブックリストの作成・配付や、ホームページなどを通じて情報提供に努める。
 - ・ おはなし会の充実を図るため、ボランティア入門講座を開催する。

- ④ 北摂地区7市3町で公立図書館の広域利用を開始する。
- ・ 北摂地区7市3町の公立図書館で図書を借りることができるよう、広域利用を開始する。
- ⑤ ボランティアと協働し、より多くの市民が物語やお話、本と出会う機会の充実に努める。
- ・ 高齢者施設や図書館での朗読会の開催や読み聞かせ、読書のきっかけとなる人形劇・子ども向け工作等行事など、幅広い年齢層の方々が参加できる行事を開催する。
- ⑥ 図書館の利用に障害のある方や高齢者など、読書困難者へのサービスの充実に努める。
- ・ 視覚障害に加え、発達障害や四肢の障害、高齢等により通常の活字による情報を得ることが困難な方へのサービスの充実に努める。
- ⑦ 図書館の取り組みについて積極的な情報発信に努める。
- ・ ホームページの充実を図り、図書館の情報を幅広く発信する。
 - ・ フェイスブック等を活用するほか、チラシやリーフレット等で広報を行う。

(3) 蔵書（資料所蔵）統計

①蔵書冊数の推移



(単位:冊)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中央図書館	692,227	687,846	709,076	719,582	721,985
中条図書館	95,283	86,875	88,965	93,019	96,229
水尾図書館	94,024	93,026	93,983	97,252	95,767
庄栄図書館	76,388	73,267	72,082	74,570	75,204
穂積図書館	94,302	87,293	91,139	94,518	96,126
分室	158,852	151,122	155,938	156,994	158,042
移動図書館	15,731	14,740	12,927	13,780	12,279
合計	1,226,807	1,194,169	1,224,110	1,249,715	1,255,632

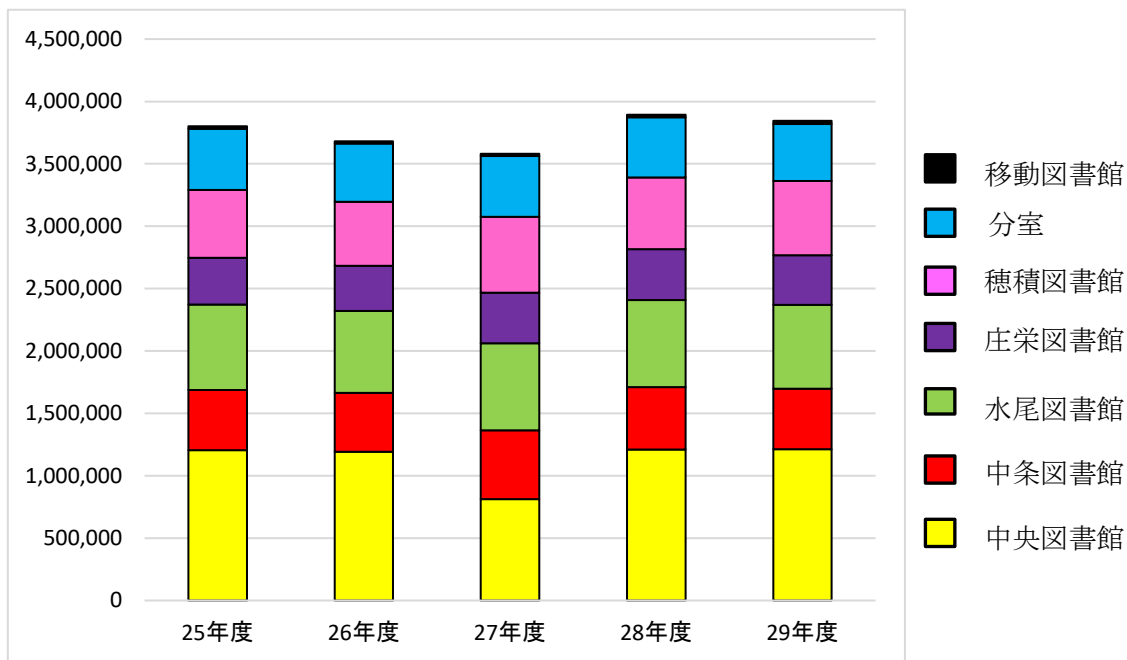
(複製絵画、CD-ROM、紙芝居、視聴覚資料、雑誌、新聞は除く。)

②分室別蔵書冊数の推移

(単位:冊)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大池分室	20,095	18,561	19,368	19,330	19,340
豊川分室	18,359	17,147	17,573	17,477	18,221
白川分室	23,570	22,594	23,140	23,381	22,136
天王分室	17,334	15,961	16,555	16,911	17,266
玉島分室	19,573	18,768	18,993	19,270	19,619
山手台分室	18,421	18,098	19,009	19,206	19,449
太田分室	18,352	16,386	17,038	17,355	17,430
彩都西分室	23,148	23,607	24,262	24,064	24,581
合計	161,048	158,852	151,122	155,938	158,042

(4) 利用統計



(単位：点)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中央図書館	1,204,442	1,191,201	812,314	1,211,286	1,213,978
中条図書館	483,438	474,236	551,524	498,498	483,813
水尾図書館	685,047	655,840	699,141	698,551	670,931
庄栄図書館	374,236	361,607	404,198	406,745	399,150
穂積図書館	544,109	513,279	607,512	575,192	593,932
分 室	490,242	466,245	487,161	483,799	458,586
移動図書館	19,559	18,227	18,689	18,535	23,419
合 計	3,801,073	3,680,635	3,580,539	3,892,606	3,843,809

(郵送貸出は中央に含む。ただし、平成27年10月～平成28年1月分は、中条に含む)

(団体貸出、点字・録音図書の貸出は除く)

(5) 利用指標

①利用状況（平成29年度）

人 口	281,478 人 <small>(平成29年3月31日現在)</small>		分室開室日数(8分室)	延べ 1,327 日
開館日数	中央図書館	312 日	実登録人数	62,786 人
	中条図書館	301 日	貸出人数	899,177 人
	水尾図書館	301 日	貸出点数	3,843,809 点
	庄栄図書館	301 日	資料点数	1,310,152 点
	穂積図書館	301 日		

(個人貸出点数は視覚障害者用資料(録音図書・点字図書)の貸出を除く。)

(資料点数は雑誌・新聞・視覚障害者用資料(録音図書・点字図書)を除く。)

②利用指標（平成29年度）

(1)	市民 1 人 当 たり 貸 出 点 数	$\frac{\text{貸出点数}}{\text{人 口}}$	$\frac{3,843,809}{281,478}$	= 13.7 点
(2)	登 録 者 1 人 当 たり の 貸 出 点 数	$\frac{\text{貸出点数}}{\text{登録人数}}$	$\frac{3,843,809}{62,786}$	= 61.2 点
(3)	資 料 回 転 率	$\frac{\text{貸出点数}(\ast 1)}{\text{資料点数}(\ast 2)}$	$\frac{3,843,809}{1,291,308}$	= 3.0 回
(4)	登 録 率	$\frac{\text{登録人数} \times 100}{\text{人 口}}$	$\frac{62,786}{281,478}$	= 22.3 %
(5)	市民 1 人 当 たり 資 料 点 数	$\frac{\text{資料点数}}{\text{人 口}}$	$\frac{1,310,152}{281,478}$	= 4.7 点
(6)	市民 1 人 当 たり 年 間 新 規 資 料 増 加 点 数 (視 聴 覚 資 料 を 含 む)	$\frac{\text{年間新規増加点数}}{\text{人 口}}$	$\frac{58,395}{281,478}$	= 0.21 点
(7)	市民 1 人 当 たり 年 間 資 料 購 入 費	$\frac{\text{資料購入費}}{\text{人 口}}$	$\frac{87,864,840}{281,478}$	= 312 円
(8)	図 書 資 料 購 入 平 均 単 価	$\frac{\text{図書購入費}}{\text{図書購入冊数}}$	$\frac{75,371,115}{56,394}$	= 1,337 円
(9)	職 員 1 人 当 たり 貸 出 点 数	$\frac{\text{貸出点数}}{\text{職員数}(\ast 3)}$	$\frac{3,843,809}{98}$	= 39,143 点
(10)	職 員 1 人 当 たり 奉 仕 人 口	$\frac{\text{人 口}}{\text{職員数}(\ast 3)}$	$\frac{281,478}{98}$	= 2,866 人

(※1) 資料回転率の貸出点数は雑誌・相互貸借・視覚障害者用資料(録音図書・点字図書)の貸出を除く。

(※2) 資料回転率の資料点数は、雑誌・館内閲覧資料13,054冊)、館内視聴用LD、DVD(4,930点)・視覚障害者用資料(録音図書・点字図書)を除く。

(※3) 職員数は平成30年4月1日現在(臨時職員を含む)。

③利用指標の推移

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
(1)	市民1人当たり貸出点数	12.8 点	13.9 点	13.7 点
(2)	登録者1人当たりの貸出点数	53.6 点	60.6 点	61.2 点
(3)	資料回転率	2.8 回	2.9 回	3.0 回
(4)	登録率	23.9 %	22.9 %	22.3 %
(5)	市民1人当たり資料点数	4.6 点	4.6 点	4.7 点
(6)	市民1人当たり年間新規資料増加点数 (視聴覚資料を含む)	0.21 点	0.20 点	0.21 点
(7)	市民1人当たり年間資料購入費	313 円	313 円	312 円
(8)	図書資料購入平均単価	1,339 円	1,361 円	1,337 円
(9)	職員1人当たり貸出点数	38,750 点	41,499 点	39,143 点
(10)	職員1人当たり奉仕人口	3,026 人	2,991 人	2,866 人

※中央図書館は、平成27年10月1日～平成28年1月31日まで、改修工事のため臨時休館

(6) 行事等の状況 (平成29年度)

①集会行事

行 事 名	開 催 日	内 容	回数	参加人数
おはなし会	中央・分館(月1~2回) 分室(月2回)	おはなし会ボランティア (図書館及び分室で開催)	275	4,378
	随時	おはなし会ボランティア (小学校等で開催)	123	10,761
子ども向け工作等行事	随時	各図書館	25	1,108
人形劇	8月19日	水尾図書館 「森のカーランコ」	1	73
	9月16日	中条図書館 「森のカーランコ」	1	74
	11月19日	庄栄図書館 「森のカーランコ」	1	75
	2月17日	穂積図書館 「はらぺこ坊やホップくん」	1	91
読み聞かせ講座	5月28日	中央図書館 「親子で楽しむ絵本・わらべうた」 講師 岩出景子 氏	1	33
	11月26日	中条図書館 「親子で楽しむ絵本・わらべうた」 講師 岩出 景子 氏	1	42
子どもの本の読書講座	6月15日	中央図書館 「読みきかせをはじめよう」 講師 土居 安子 氏	1	71
	7月2日	水尾図書館 「科学の本っておもしろい」 講師 西村 寿雄 氏	1	24
	1月27日	庄栄図書館 「絵本がもっと好きになる ～絵本いまむかし～」 講師 土居 安子 氏	1	36
えほんひろば	5月13日	中条図書館 まちライブラリー-BOOK FESTA参加イ ベント	1	33
	9月30日	イオンモール茨木 大阪府教育庁と共催 ※参加人数は概数	1	570※
「みんなでつくろう！おす すめ本の木」	4月29日～5月28日	中央図書館 庄栄図書館 まちライブラリー-BOOK FESTA参加イ ベント	-	59
えほん交換会	4月29日,30日 5月5日,6日,21日	中央図書館、穂積図書館 まちライブラリー-BOOK FESTA参加イ ベント	5	318
大きな、おおきな絵本を 楽しもう！	5月7日	水尾図書館 まちライブラリー-BOOK FESTA参加イ ベント	1	22
教科書見本本展示会	6月13日～7月9日 6月14日～7月3日	中央図書館、水尾図書館	-	-
手作り絵本展「見てさ わってたのしもう！てづ くりの本」	7月25日～30日	中央図書館 ※ワークショップ参加者数	-	242※

行 事 名	開 催 日	内 容	回数	参加人数
「崩」ふれあい講座 (茨木市立中央図書館 友の会「崩」と共催)	6月25日	中央図書館 「健康はお口から ～元気で長生きするために～」 講師 柚木 求見 氏	1	24
	中央・分館(月1～2回) 分室(月2回)	中央図書館 「北摂の古墳群」 講師 内田 真雄 氏	1	81
「富士さんの魅力を知ろう」	12月20日～24日	中央図書館 ロビー展示「富士正晴没後30年 & 富士正晴記念館開館25年」と 子ども向け行事 ※クイズ、ぬりえ、書斎体験参加者延べ人数	5	369※
バリアフリー映画会	2月24日	中央図書館 音声解説・字幕付き映画会	1	60
図書館を使いこなそう講座 新聞編	3月18日	中央図書館	1	7
移動図書館 「ともしび号」による 地域行事参加	5月21日,7月29日・30 日 8月中,10月29日 11月5日,18日,12月2日	立命館DAY,茨木フェスティバル, 夏の移動図書館,とよかわフェスタ, 生涯学習センター,環境フェア, アル・プラザ茨木	7	1,211
朗読会	7月13日,9月6日, 1月17日,3月16日	市内デイサービスセンター等での朗読等	4	118
映画会	月3～5回 土曜日・随時	中央図書館	48	2,444
読書会	毎月第2木曜日	読後の感想、作品・作者等について話し合う	12	82
	毎月第4金曜日		12	133

(2) 第45回ライブラリーフェスティバル (平成29年10月24日～11月5日)

行 事 名	開 催 日	内 容	回数	参加人数
展示	10月24日～11月5日	「やっぱりすごい！東奈良遺跡 －銅鐸をつくった人々 ※期間中の来館者数	-	20,462※
富士正晴記念館 特別講演会	10月29日	「司馬遼太郎の風景 －富士正晴先生の思い出－」 講師 上村 洋行 氏	1	65
人形劇	11月4日	ほっこりシアター 「おふろだいすき」他	1	82
講演会	11月5日	「やっぱりすごい！東奈良遺跡 －銅鐸をつくった人々 講師 文化財資料館文化財調査担当員	1	63
朗読会	11月5日	中央図書館「めくるめく本の世界へ」	1	17
映画会	10月25日～27日 11月1日～3日	中央図書館 「名作文学特集」	6	365
子どもの本交換会	10月27～29日	中央図書館	3	217
リサイクルフェア	10月28日,11月4日	中条・水尾・庄栄・穂積図書館 リサイクル図書の譲与	4	486
おはなし会 スペシャル	10月28日,29日	水尾図書館、中央図書館	2	60

V. 茨木市青少年問題協議会

1. 茨木市青少年問題協議会の目的

市内における青少年の指導、育成、保護及び矯正に関係ある公私の機関の有機的統一をはかり、総合的対策を樹立するとともに、自ら青少年の保護育成活動を展開することを目的とする。

2. 平成 29 年度活動方針

平成 29 年度茨木市青少年健全育成運動重点目標
子どもの SOS ほっとくん？
～大人が気付いて 声をかけあう 関係づくり～

子どもの SOS をキャッチしたら、まずは子どもへの「声かけ」や「言葉かけ」から始めましょう。一人だけで考えず、家族や地域の大人と話してみることも子どもを支える力になります。

青少年問題協議会では、以上の重点目標を提唱しており、学校・家庭・地域・青少年健全育成団体・行政機関等が、目標達成に向けての具体的な取組みを行い、青少年の健全育成に寄与するようお願いしております。

(1) 青少年の健全育成の推進

- ① 地域での人間関係の構築及び青少年の規範意識の醸成
ア) 小学校区・中学校区での活動
- ② 青少年健全育成のための安全・安心な環境整備
ア) 巡回街頭指導活動の推進
イ) 立ち入り調査(青少年環境実態調査)活動
ウ) 薬物乱用及び喫煙・飲酒の防止
エ) 携帯電話・スマートフォン等の使用指導
オ) 茨木のこどもを守る運動の推進
- ③ 青少年健全育成のための啓発
ア) 啓発活動
イ) 青少年の規範意識の向上
- ④ 安全・安心な居場所の提供
ア) 放課後子ども総合プランの推進
イ) あそび場の提供

(2) 青少年の体験活動の充実

- ① 豊かな心を育む機会の提供
ア) 体験活動の機会の提供
イ) 美しいものを美しいと感じる機会の提供

- ウ) 命の大切さを学ぶ機会の提供
- エ) ボランティアの育成
- オ) たくさんの本と出会う機会の提供
- ② 青少年の活動拠点施設の機能充実
 - ア) 上中条青少年センター
 - イ) 青少年野外活動センター
- ③ 地域における体験活動の充実
 - ア) こども会活動の充実
 - イ) 地域等での交流機会の提供
 - ウ) 青少年団体の活動支援

(3) 若者の自立支援

- ① 相談支援体制の充実
 - ア) 困難を有する子ども・若者の支援体制の整備
 - イ) いじめ・不登校への対策・支援
 - ウ) 青少年に関する相談機関の紹介

3. 青少年指導員活動の充実

青少年指導員は、青少年問題協議会会長(市長)の委嘱を受け、地域社会における青少年活動の育成・指導をはじめ、社会環境の浄化活動等を行っているボランティアである。

◇青少年指導員名簿

第18期分(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

中学校区	小学校区	氏名	中学校区	小学校区	氏名	中学校区	小学校区	氏名	
養精 11	茨木 3	吹上 千恵	南 14	玉櫛 6	雨堤 琢也	天王 9	天王 3	川西 洋子	
		佐坂 美香			加藤 重雄			明瀬 秀憲	
		磯部 護			保坂 美文			平子 良江	
	中条 4	滝ノ上 万記			永易 弘子		東奈良 3	河田 真理子	
		西川 裕二			田栗 祥子			和田 美紀	
		桐原 幸治			前原 正司			高田 和子	
	大池 2	三橋 友紀		水尾 4	稲垣 淳子		玉櫛 2	中村 久美恵	
		山田 喜美江			川堤 幸恵			加藤 順子	
	東奈良 2	岸本 勝彦			千原 豊		葦原1	小西 勝二	
		平里 勝也		柳原 まゆみ	春日丘 2	平山 功			
	西 10	春日 4		弘 亜矢子	葦原 4	西本 初代	西陵 8	春日丘 2	福丸 孝之
森 利勝			小林 篤史	沢池 2					小山 三佳
有木 省二			田中 壮一	穂積1				秋山 雅典	
松山 勝彦			須田 尚子					水木 真実子	
春日丘 2		吉田 貢	三島 3	野口 淳子	西 3	山口 昌孝			
		織田 幹範		堤 充広		木和田 眞美			
郡 2		江原 陽子	庄栄 3	和田 敏一		大池 3		加藤 裕紀	
		片桐 純子		久富 福治	森田 稔恵				
畑田 2		橋元 浩昭		川上 さおり	三代 由利佳		大谷 学		
		林 由美子	西河原1	日野 典子	国行 礼子				
東 9	茨木 2	河野 勝則	北 7	安威1	平田 11	大池 3	荒木 利之		
		岸本 悦子		大西 與晶			横関 千賀子		
	大池 4	有明 京子		福井 2			三輪 真寿美	玉島 5	谷本 博
		齊藤 洋一		耳原 4			杉本 麻里		齊藤 善之
		土方 康正					高橋 さなえ		池田 恵子
	中津 3	中村 元宣		耳原 4		下田平 恭一	中津 2	川井 悦子	
		宮本 永実				桑原 誠		鎌田 守弘	
	森下 美穂	藤森 潔文				水尾1	榎 克己		
	山本 哲也								

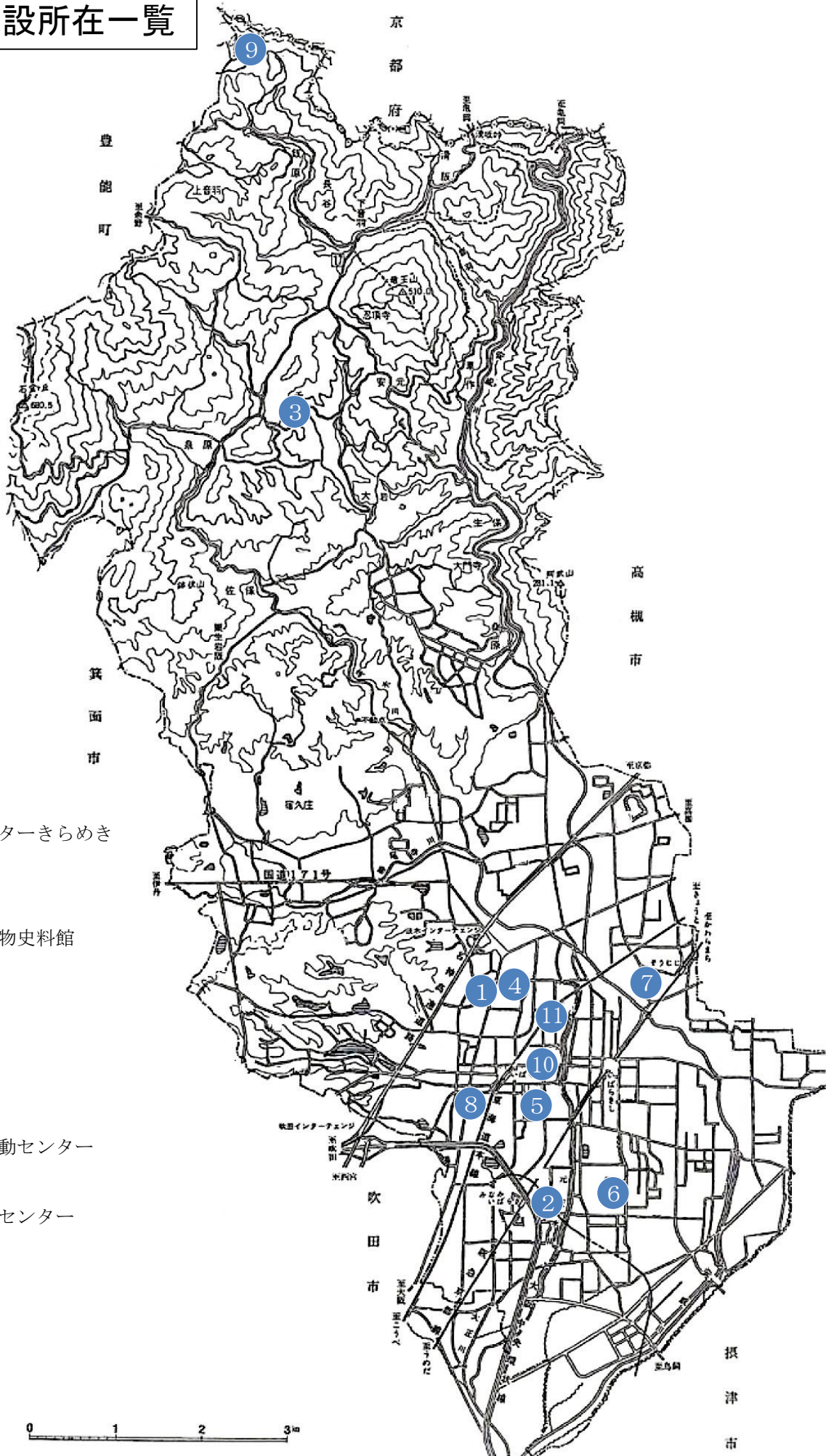
中学 校区	小学 校区	氏 名	中学 校区	小学 校区	氏 名	中学 校区	小学 校区	氏 名
豊川 6	豊川 3	森脇 和也	東雲 10	東 5	福田 裕之	北陵 5	安威1	小林 洋樹
		木村 明信			水嶋 英美		忍頂寺 2	阪 和也
		多賀橋 加代子			森田 英子		山手台 2	松本 晋
	郡山 3	三好 桂子			宮本 栄利子			吉川 忠男
		赤木 健二			白神 淳		渡邊 里香	
		福山 秀子			岩本 美津子		太田 5	濱園 明洋
		木村 美鶴		太田 3	小野 大			
		中村 大吾			西河原 2	須田 裕一		
		野田 哲弘		山本 浩司				
		坂井 まり子		長田 直美				
							彩都 西 4	彩都西 3
	福本 祥一							
大伴 圭介								
清溪1	上辻 隆明							

4. 青少年問題協議会関係事業一覧

(平成 29 年度)

月	事業名
7	・茨木神社夏まつり巡回街頭指導
	・「深夜はいかい」等防止巡回街頭指導
	・茨木フェスティバル巡回街頭指導
	・青少年問題協議会専門部会
8	・弁天宗花火大会巡回街頭指導
	・「深夜はいかい」等防止巡回街頭指導
	・青少年問題協議会
9	・大阪府青少年指導員連絡協議会研修会
10	・青少年問題協議会専門部会
11	・子ども・若者育成支援強調月間
	・青少年指導員連絡協議会研修会
12	・青少年問題協議会専門部会
1	・青少年問題協議会専門部会
	・三島ブロック青少年指導員連絡協議会研修会
2	・大阪府青少年指導員連絡協議会研修会
	・青少年問題協議会
3	・青少年指導員連絡協議会研修会
	・青少年健全育成研修会
	・茨木市青少年健全育成運動重点目標リーフレット発行
随時	・中学校区ごとの「教育問題懇談会」
	・中学校区青少年健全育成大会
	・関係団体による街頭指導
	・青少年に対する巡回街頭指導と、「深夜営業店」「シンナー等の販売業者・取り扱い業者」等への協力依頼活動
	・青少年を取り巻く社会環境の浄化活動の推進

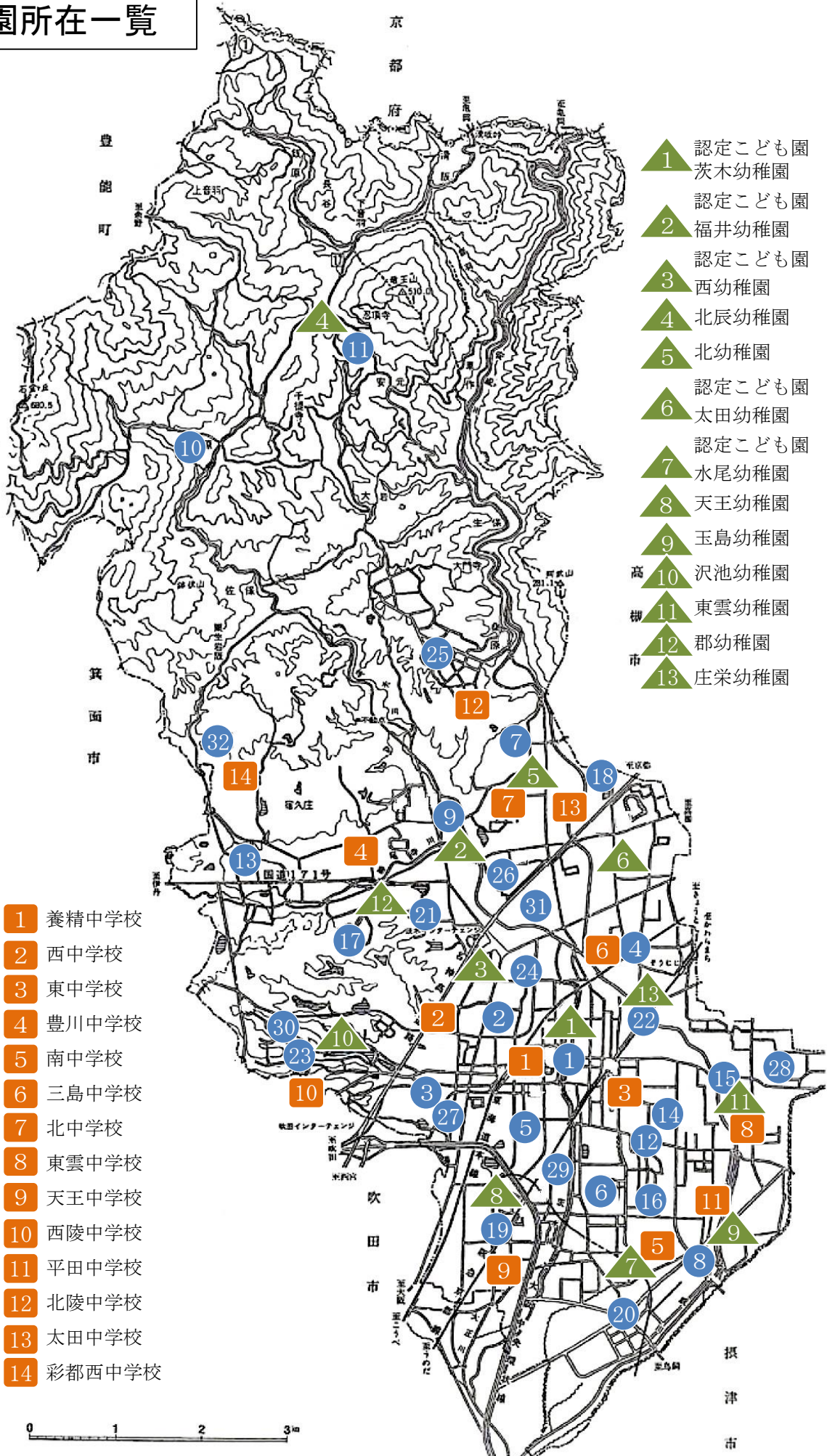
市立教育施設所在一覽



- ① 生涯学習センターきらめき
・中央公民館
- ② 文化財資料館
- ③ キリシタン遺物史料館
- ④ 中央図書館
- ⑤ 中条図書館
- ⑥ 水尾図書館
- ⑦ 庄栄図書館
- ⑧ 穂積図書館
- ⑨ 青少年野外活動センター
- ⑩ 教育センター
- ⑪ 上中条青少年センター

0 1 2 3km

市立学校園所在一覽



- 1 茨木小学校
- 2 春日小学校
- 3 春日丘小学校
- 4 三島小学校
- 5 中条小学校
- 6 玉籬小学校
- 7 安威小学校
- 8 玉島小学校
- 9 福井小学校
- 10 清溪小学校
- 11 忍頂寺小学校
- 12 大池小学校
- 13 豊川小学校
- 14 中津小学校
- 15 東小学校
- 16 水尾小学校
- 17 郡山小学校
- 18 太田小学校
- 19 天王小学校
- 20 葦原小学校
- 21 郡小学校
- 22 庄栄小学校
- 23 沢池小学校
- 24 畑田小学校
- 25 山手台小学校
- 26 耳原小学校
- 27 穂積小学校
- 28 白川小学校
- 29 東奈良小学校
- 30 西小学校
- 31 西河原小学校
- 32 彩都西小学校

- 1 養精中学校
- 2 西中学校
- 3 東中学校
- 4 豊川中学校
- 5 南中学校
- 6 三島中学校
- 7 北中学校
- 8 東雲中学校
- 9 天王中学校
- 10 西陵中学校
- 11 平田中学校
- 12 北陵中学校
- 13 太田中学校
- 14 彩都西中学校

- 1 認定こども園
茨木幼稚園
- 2 認定こども園
福井幼稚園
- 3 認定こども園
西幼稚園
- 4 北辰幼稚園
- 5 北幼稚園
- 6 認定こども園
太田幼稚園
- 7 認定こども園
水尾幼稚園
- 8 天王幼稚園
- 9 玉島幼稚園
- 10 沢池幼稚園
- 11 東雲幼稚園
- 12 郡幼稚園
- 13 庄栄幼稚園

0 1 2 3km

摂
津
市

公民館所在一覽

- 1 茨木公民館
- 2 春日丘公民館
- 3 中条公民館
- 4 玉櫛公民館
- 5 安威公民館
- 6 玉島公民館
- 7 福井公民館
- 8 清溪公民館
- 9 見山公民館
- 10 石河公民館
- 11 太田公民館
- 12 太田公民館分室
- 13 天王公民館
- 14 郡山公民館
- 15 山手台公民館
- 16 耳原公民館
- 17 白川公民館
- 18 西公民館

